
行田市民意識調査 報告書

令和2年1月

行田市

はじめに



令和2年1月 行田市長 石井直彦

近年、人口減少、少子高齢化の進展による社会構造や生活環境の変化などから、市民の意識や市政に対する意見は年々多様化・複雑化してきております。地域の特性を活かし、市民が安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいくには、その基礎となる市民の皆様の意向や社会情勢の的確な把握・分析が必要です。

こうしたことから、市では、市政全般にわたる考えを広くお聴きするため、無作為に抽出した18歳以上の市民3,000人の方々を対象に市民意識調査を実施いたしました。この調査結果は、今後の市政運営に反映させていくとともに、現在策定を進めている第6次行田市総合振興計画の基礎資料として活用してまいりたいと考えております。

今回の調査にご協力をいただいた多くの方々に厚くお礼申し上げますとともに、市政に対するなお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

目次

I 調査の概要

- 1 調査目的 1
- 2 調査対象及び調査方法 1
- 3 配布数及び回収結果 1

II 調査結果

- 1 まちの暮らしやすさについて 1
 - (1) まちの住み心地 1
 - (2) 住みよい理由 2
 - (3) 住みにくい理由 2
 - (4) 今後の居留意向 3
- 2 市の生活環境や施設の満足度について 3
 - (1) 道路・交通の満足度 3
 - (2) 生活環境の満足度 4
 - (3) 教育・文化・コミュニティの満足度 5
 - (4) 保健・医療・福祉の満足度 6
- 3 今後のまちづくりについて 7
 - (1) 行政が特に力を入れてほしい施策 7
 - (2) 行田市の将来像 8
- 4 地域との関わりについて 8
 - (1) 地域活動への参加 8
 - (2) 参加したい地域活動 9
 - (3) ボランティア活動への参加状況 9
 - (4) 参加しているボランティア活動 10
 - (5) 参加したいが機会がない理由 10
 - (6) 福祉活動への関心 11
 - (7) 地域住民の支え合いの必要性 11
 - (8) 近隣との付き合い 12
- 5 少子・高齢化への対応について 12
 - (1) 少子化社会に対応するために重要なこと 12
 - (2) 高齢化社会に対応するために重要なこと 13
- 6 施設・都市機能について 13
 - (1) 施設や都市機能整備のありかた 13
 - (2) 市の環境 14
 - (3) 環境保全・改善のために強化すべき活動 15
 - (4) 市のごみ収集体制 15
 - (5) 収集回数を増やしたほうがよいごみ 16
 - (6) 収集回数を減らしたほうがよいごみ 16
- 7 健康について 17

(1) 自分が健康だと思うか	17
(2) どのくらい体を動かしているか	17
(3) 食育への取組	18
(4) 健康診断や検査の受診	18
(5) 定期的な歯科検診	21
(6) 健康増進や健康寿命の延伸のために必要な施策	22
(7) こころの健康づくりや自殺予防	23
8 景観について	24
(1) 魅力ある景観づくりに重要なこと	24
9 産業振興について	25
(1) 商業や産業の振興に重要なこと	25
10 公園の管理について	25
(1) 地域の公園の望ましい維持管理体制	25
11 市の情報について	26
(1) 市政情報の入手元	26
(2) 詳しく知りたい市の情報	27
12 市内循環バス、デマンドタクシーについて	27
(1) 市内循環バスの利用状況	27
(2) 市内循環バスの利用目的	28
(3) 電車乗り継ぎの利用目的	28
(4) 市内循環バスの今後の利用条件	29
(5) デマンドタクシーについて	29
(6) デマンドタクシーの検討すべき点	30
13 国際交流について	30
(1) 望ましい国際交流の促進方法	30
14 市の教育方針について	31
(1) 力を入れるべき教育	31
15 防災体制について	31
(1) 防災体制として重要なこと	31
(2) 自身や家庭での防災対策の状況	32
(3) 防災対策の取り組みの内容	32
(4) 防災対策に取り組んでいない理由	33
(5) 街頭防犯カメラの設置への意見	33
16 ものづくり大学について	34
(1) ものづくり大学施設の見学・利用状況	34
(2) ものづくり大学に期待すること	34
17 市民の通勤、買い物などの行き先について	35
(1) 市民の通勤・通学、買い物などの主な行き先	35
18 インターネットの利用について	37
(1) インターネットが利用できる環境	37
19 市政や市役所について	37
(1) 行政への信頼度	37
(2) 各施策の実行能力	38

(3) 市役所の利用しやすさ	38
(4) 窓口の対応	38
(5) 市民の声を反映しやすくするために必要なこと	39
(6) 市政への参加	39
(7) 今後の行政運営について望ましいと思う方向	40

本調査結果報告書の留意点

本報告書を理解する上で、次の点に留意する必要がある。

- 比率は百分率（単位：％）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100％を上下する場合もある。
- 基数となるべき実数は、“n＝〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100％として算出した。
- 1人の回答者が複数の回答を出してもよい調査結果もあるため、回答のn比率が100％を超える場合がある。
- 問いの中には「～に〇と答えた方にお尋ねします。」などいろいろな制限があり、回答者の数が少ない問いが含まれるため、有意性が低いものもある。
- 本報告書では、回答する必要のない箇所及び回答すべき箇所でないところを回答している場合は「非該当」として扱う。
- 本報告書では、回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱う。

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、まちづくりに取り組む上で、市民が市政に対してどのような意識をもっているか市政全般にわたる考えを広く聞き、その意向を行政に反映させることを目的に実施したものである。

2 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	市内在住の18歳以上の方
標本数	3,000人（無作為抽出）
調査方法	郵送による配布・回収（郵送法）
調査時期	令和元年7月25日～8月9日
調査地域	市内全域

3 配布数及び回収結果

配布数	3,000
有効回収数	1,560
有効回収率	52.0%

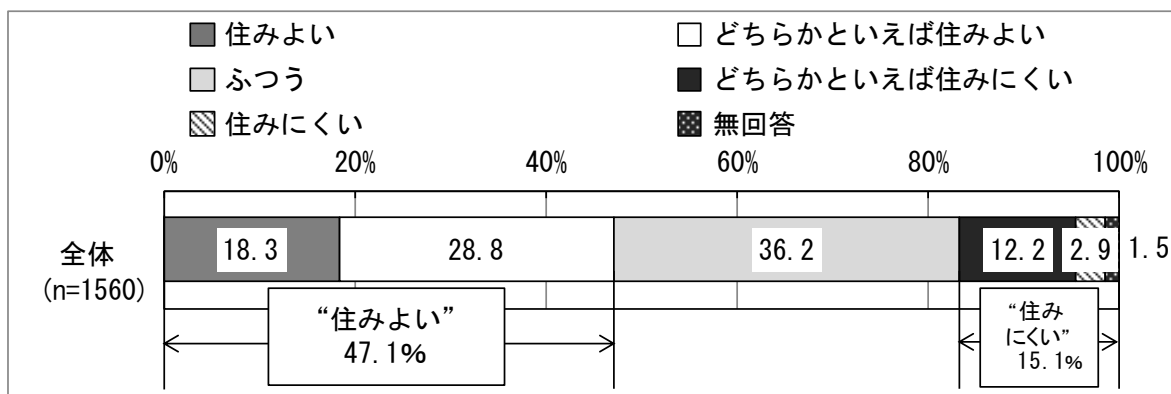
II 調査結果

1 まちの暮らしやすさについて

(1) まちの住み心地

■ “住みよい”が47.1%、「ふつう」が36.2%、“住みにくい”は15.1%。

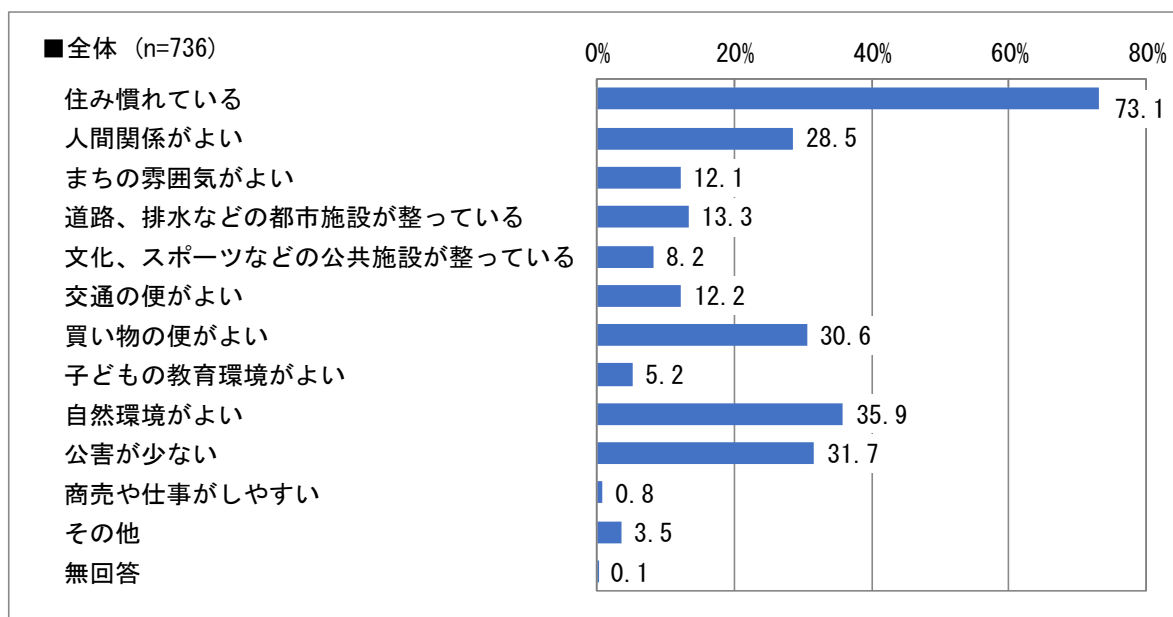
まちの住み心地については、「ふつう」が36.2%で最も多い。次いで「どちらかといえば住みよい」が28.8%で続き、これに「住みよい」（18.3%）を合わせた“住みよい”が47.1%と半数弱を占める。一方、「どちらかといえば住みにくい」（12.2%）及び「住みにくい」（2.9%）を合わせた“住みにくい”は15.1%となっており、“住みよい”が“住みにくい”の約3.1倍となっている。



(2) 住みよい理由

■住みよい理由は「住み慣れている」が第1位。次いで「自然環境がよい」、「公害が少ない」、「買い物の便がよい」、「人間関係がよい」の順。

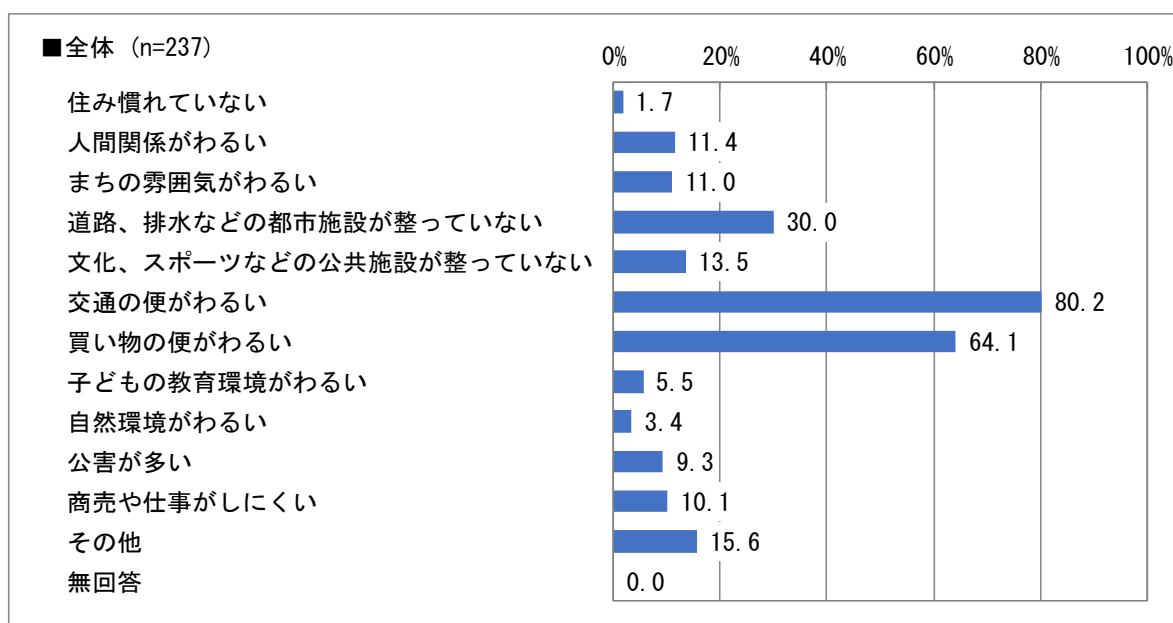
まちの住み心地で“住みよい”と回答した人(736人)にその理由を尋ねたところ、「住み慣れている」が73.1%で他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「自然環境がよい」(35.9%)、「公害が少ない」(31.7%)、「買い物の便がよい」(30.6%)、「人間関係がよい」(28.5%)などの順となっている。



(3) 住みにくい理由

■住みにくい理由は「交通の便がわるい」が第1位。次いで「買い物の便がわるい」、「道路、排水などの都市施設が整っていない」の順。

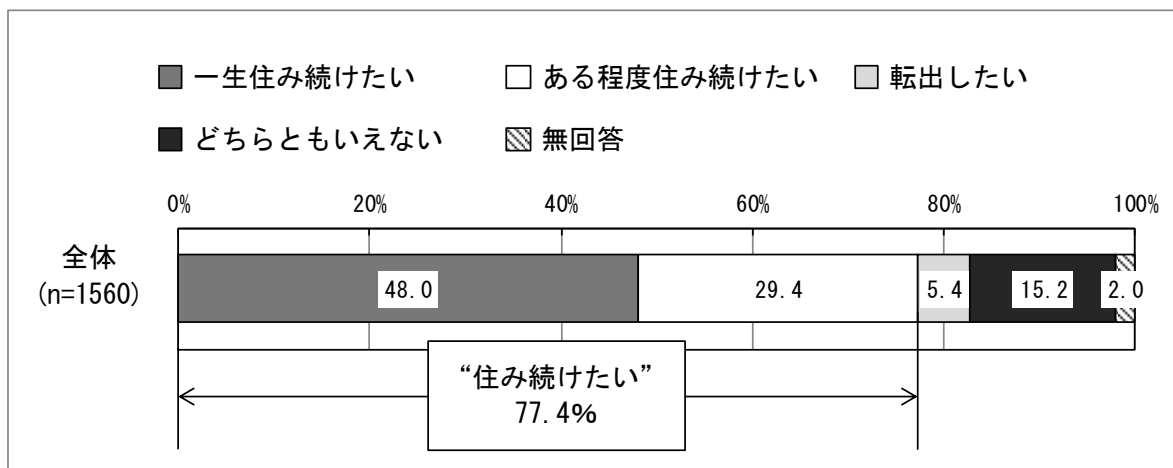
まちの住み心地で“住みにくい”と回答した人(237人)にその理由を尋ねたところ、「交通の便がわるい」が80.2%で第1位に挙げられ、次いで「買い物の便がわるい」(64.1%)、「道路、排水などの都市施設が整っていない」(30.0%)などの順となっている。



(4) 今後の居留意向

■ “住み続けたい” が 77.4% と 7 割を超え、“転出したい” は 5.4%。

今後の居留意向は、「一生住み続けたい」が 48.0% で最も多く、これに「ある程度住み続けたい」(29.4%) を合わせた“住み続けたい”が 77.4% と 7 割を超える。一方、「転出したい」は 5.4% にとどまる。なお、「どちらともいえない」は 15.2% であった。

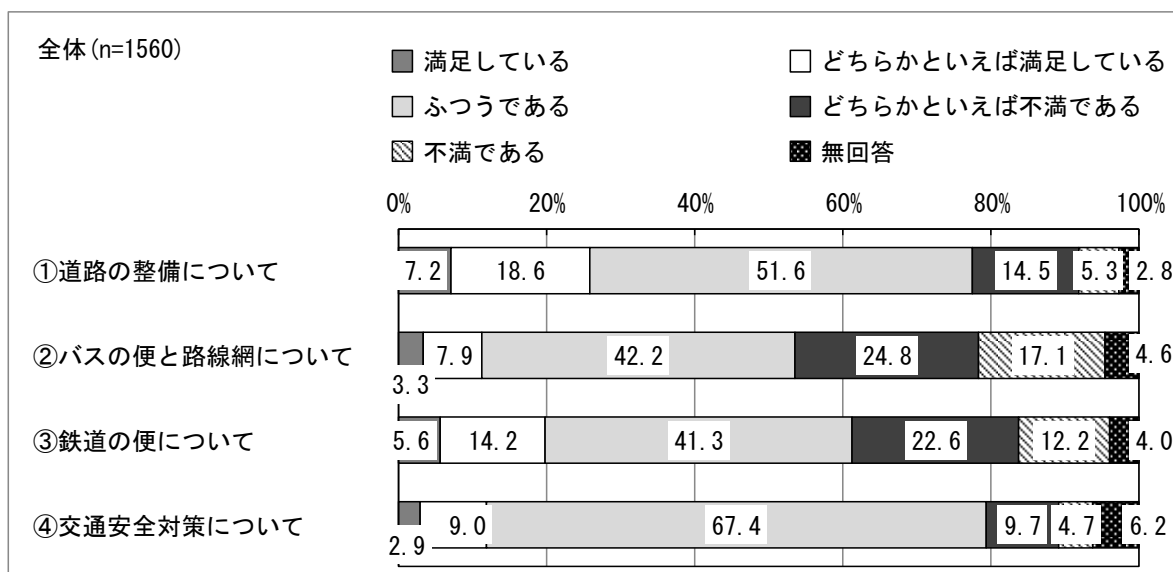


2 市の生活環境や施設の満足度について

(1) 道路・交通の満足度

■ “不満” は『②バスの便と路線網について』『③鉄道の便について』で多い。

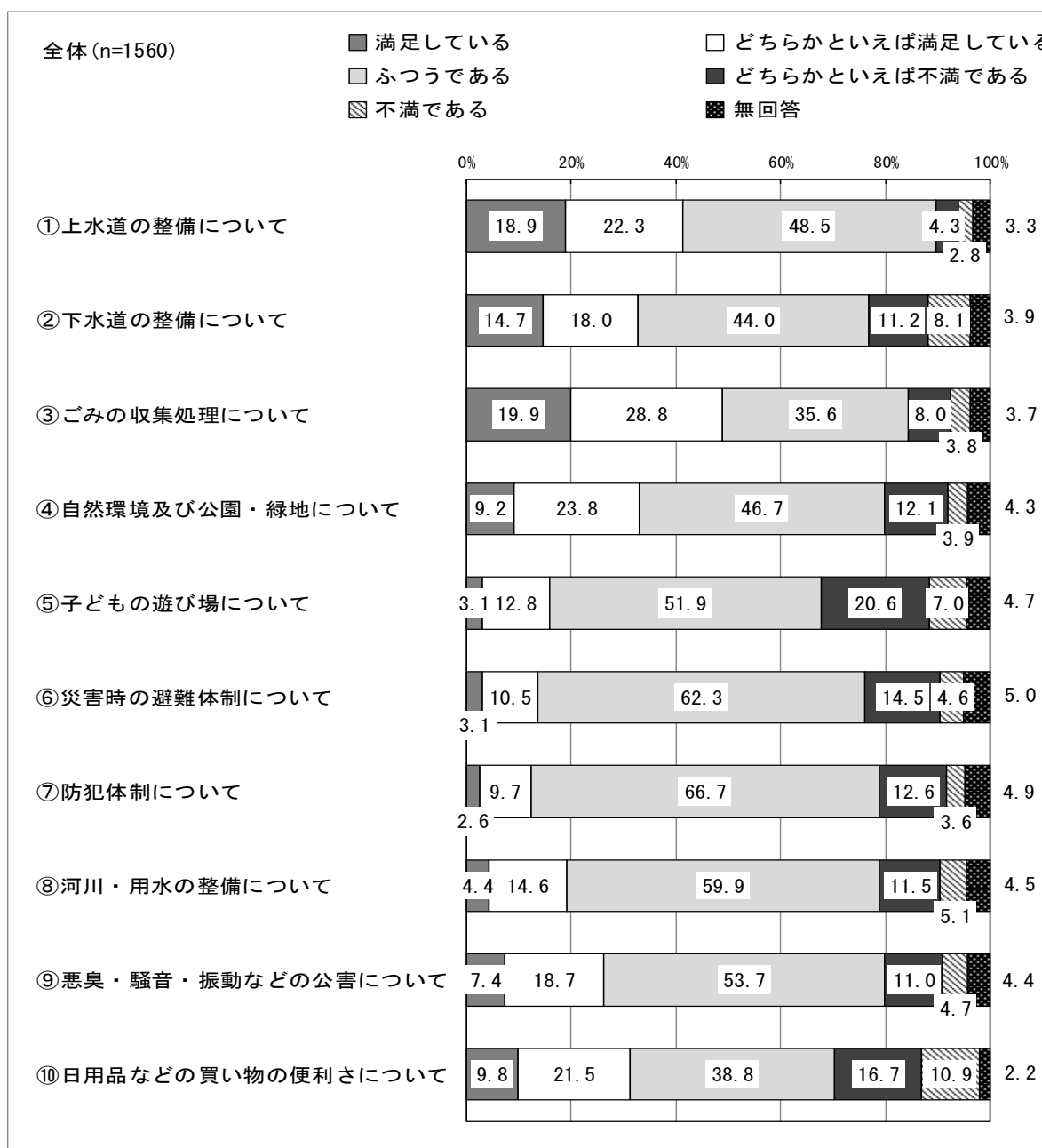
道路・交通の満足度について尋ねたところ、“満足”（「満足している」及び「どちらかといえば満足している」の合計）は『①道路の整備について』（25.8%）で最も多く、次いで『③鉄道の便について』（19.9%）が続く。一方、“不満”（「不満である」及び「どちらかといえば不満である」の合計）は『②バスの便と路線網について』（41.9%）で最も多く、次いで『③鉄道の便について』（34.7%）が続く。



(2) 生活環境の満足度

■ “不満”は『⑤子どもの遊び場について』及び『⑩日用品などの買い物の便利さについて』で最も多い。

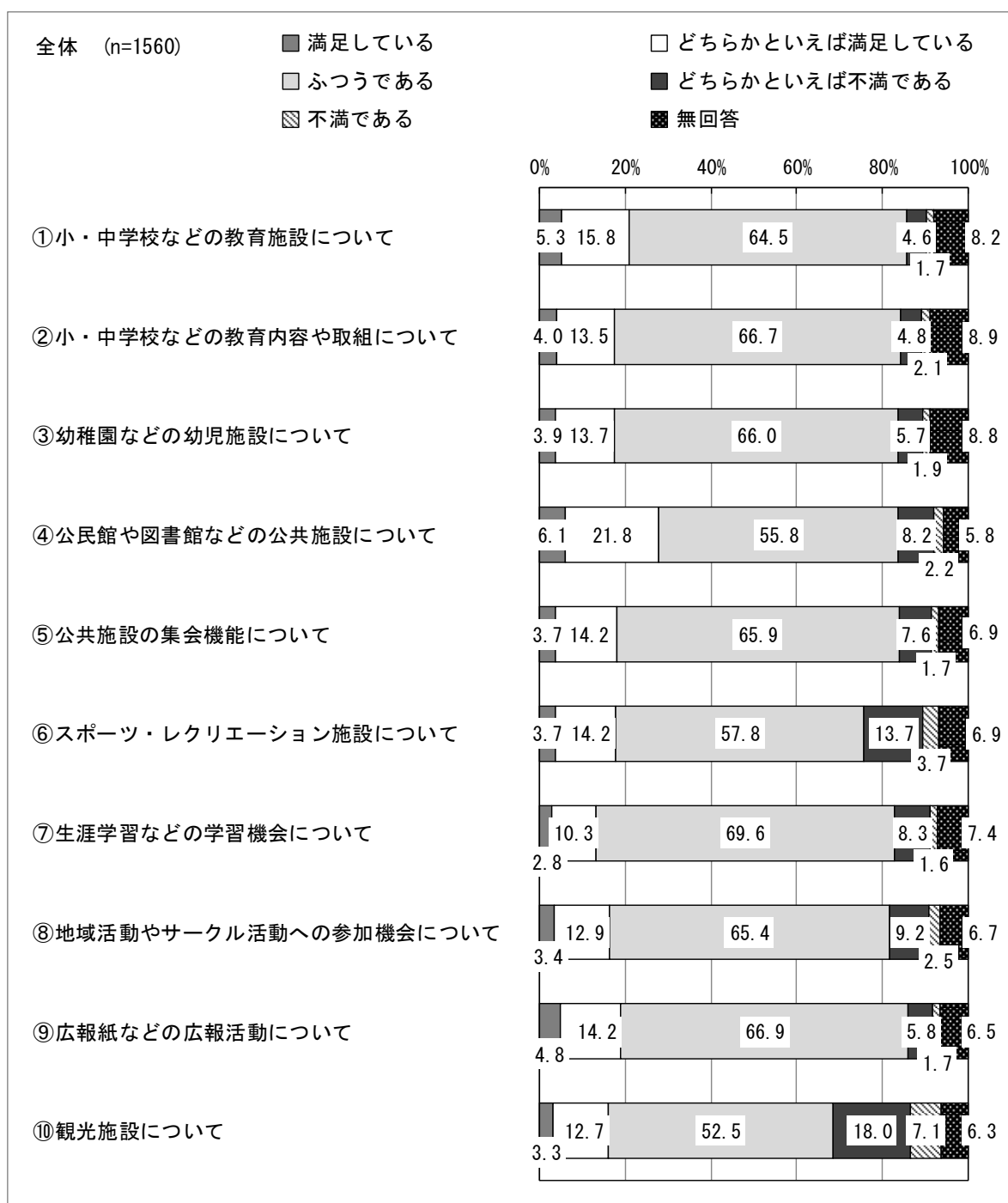
生活環境の満足度について尋ねたところ、“満足”（「満足している」及び「どちらかといえば満足している」の合計）は『③ごみの収集処理について』（48.8%）で最も多く、次いで『①上水道の整備について』（41.2%）が続いている。なお、この2項目については、“不満”（「不満である」及び「どちらかといえば不満である」の合計）が1割前後となっており、比較的良好な評価を得ているといえる。『④自然環境及び公園・緑地について』（33.0%）も同様な評価となっている。また、『②下水道の整備について』『⑩日用品などの買い物の便利さについて』については“満足”が約3割みられるものの、“不満”も2割あり、評価が分かれている。さらに、『⑥災害時の避難体制について』については、“不満”が約2割となっている。一方、“不満”が最も多い項目は、『⑤子どもの遊び場について』及び『⑩日用品などの買い物の便利さについて』（同率27.6%）となっている。



(3) 教育・文化・コミュニティの満足度

■ “不満”は『⑩観光施設について』で最も多く、次いで『⑥スポーツ・レクリエーション施設について』が続く。

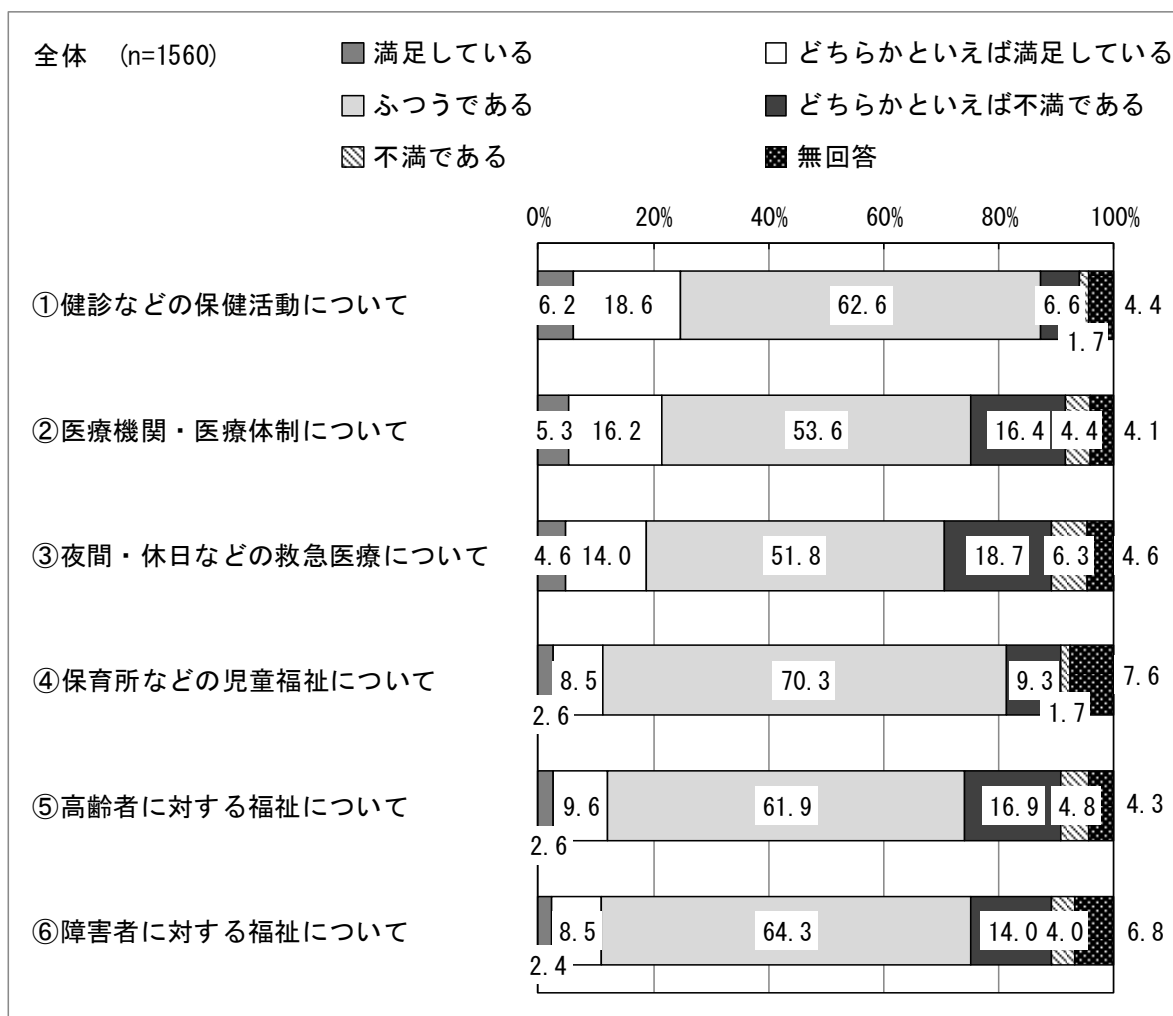
教育・文化・コミュニティの満足度について尋ねたところ、すべての項目で「ふつうである」が多数を占めている。また、“満足”（「満足している」及び「どちらかといえば満足している」の合計）は『④公民館や図書館などの公共施設について』（27.9%）で最も多い。一方、“不満”（「不満である」及び「どちらかといえば不満である」の合計）は『⑩観光施設について』（25.1%）で最も多く、次いで『⑥スポーツ・レクリエーション施設について』（17.4%）が続く。



(4) 保健・医療・福祉の満足度

■ “不満”は『③夜間・休日などの救急医療について』が最も多く、次いで『⑤高齢者に対する福祉について』が続く。

保健・医療・福祉の満足度について尋ねたところ、すべての項目で「ふつうである」が多数を占めている。また、“満足”（「満足している」及び「どちらかといえば満足している」の合計）は『①健診などの保健活動について』で最も多い。一方、“不満”（「不満である」及び「どちらかといえば不満である」の合計）は、『③夜間・休日などの救急医療について』（25.0%）で最も多く、次いで『⑤高齢者に対する福祉について』（21.7%）、『②医療機関・医療体制について』（20.8%）が続く。

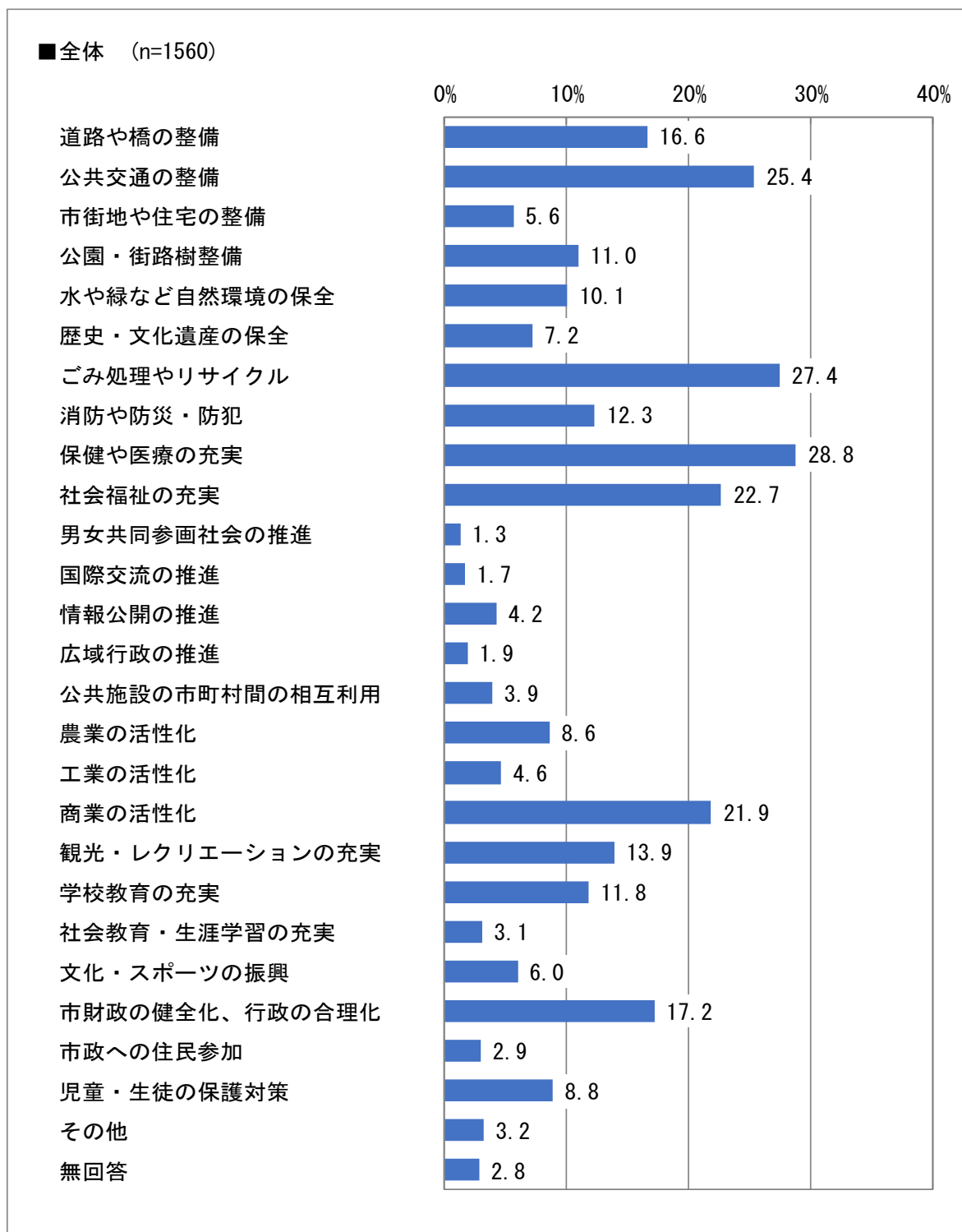


3 今後のまちづくりについて

(1) 行政が特に力を入れてほしい施策

■「保健や医療の充実」が第1位。次いで「ごみ処理やリサイクル」、「公共交通の整備」、「社会福祉の充実」、「商業の活性化」などの順。

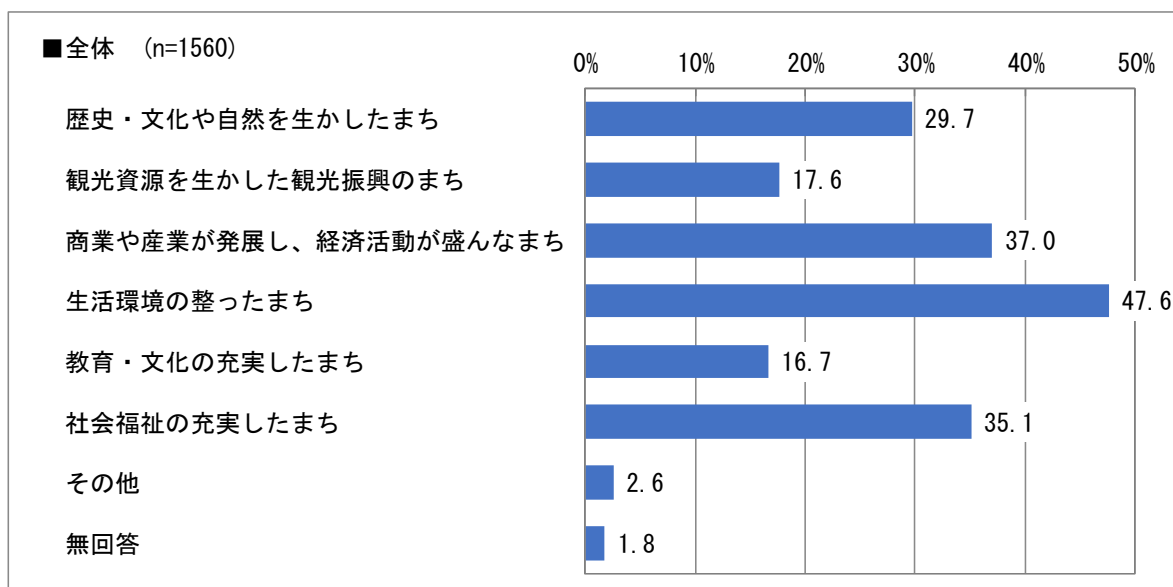
行政が特に力を入れてほしい施策は、「保健や医療の充実」(28.8%)が第1位に挙げられ、次いで「ごみ処理やリサイクル」(27.4%)、「公共交通の整備」(25.4%)、「社会福祉の充実」(22.7%)、「商業の活性化」(21.9%)などの順となっている。



(2) 行田市の将来像

■「生活環境の整ったまち」が第1位。次いで「商業や産業が発展し、経済活動が盛んなまち」の順。

行田市の将来像については、「生活環境の整ったまち」(47.6%)が第1位に挙げられ、次いで「商業や産業が発展し、経済活動が盛んなまち」(37.0%)、「社会福祉の充実したまち」(35.1%)、「歴史・文化や自然を生かしたまち」(29.7%)などの順となっている。

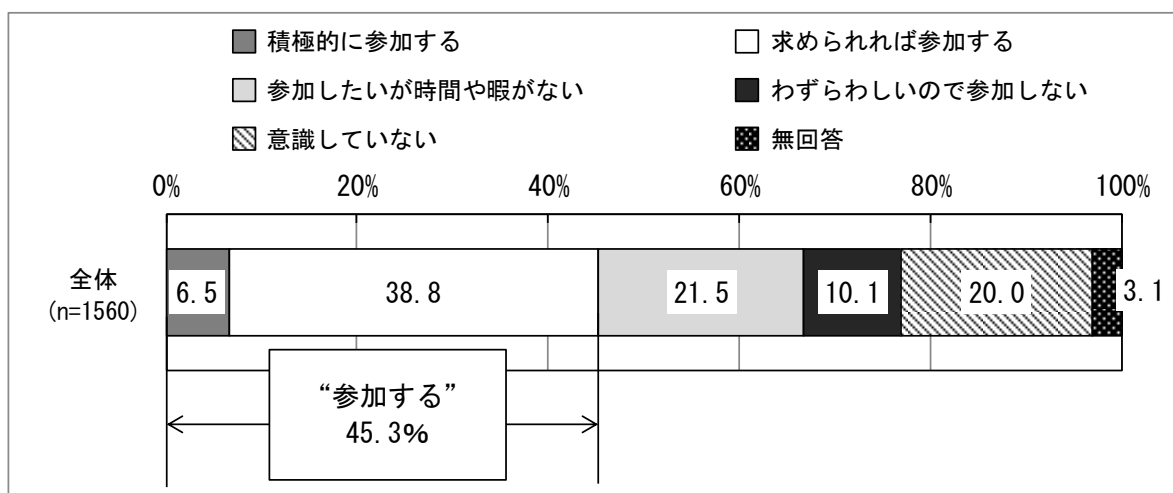


4 地域との関わりについて

(1) 地域活動への参加

■「求められれば参加する」が38.8%で約4割を占め、「参加する」が45.3%。

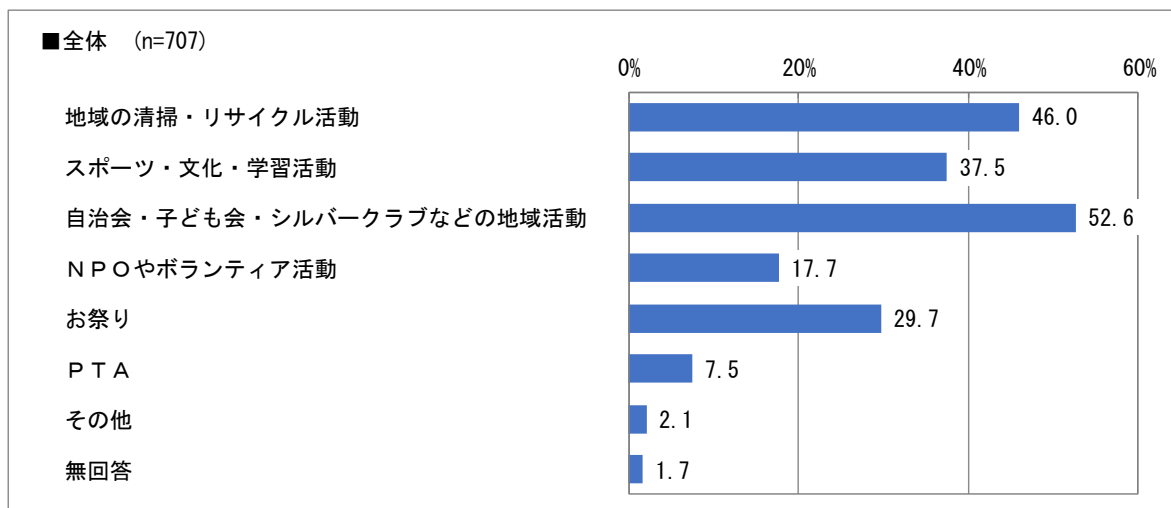
地域活動への参加意向は、「求められれば参加する」が38.8%で約4割を占め、これに「積極的に参加する」(6.5%)を合わせた「参加する」が45.3%となっている。また、「参加したいが時間や暇がない」は21.5%、「意識していない」は20.0%、「わずらわしいので参加しない」は10.1%となっている。



(2) 参加したい地域活動

■「自治会・子ども会・シルバークラブなどの地域活動」が第1位。次いで「地域の清掃・リサイクル活動」、「スポーツ・文化・学習活動」の順。

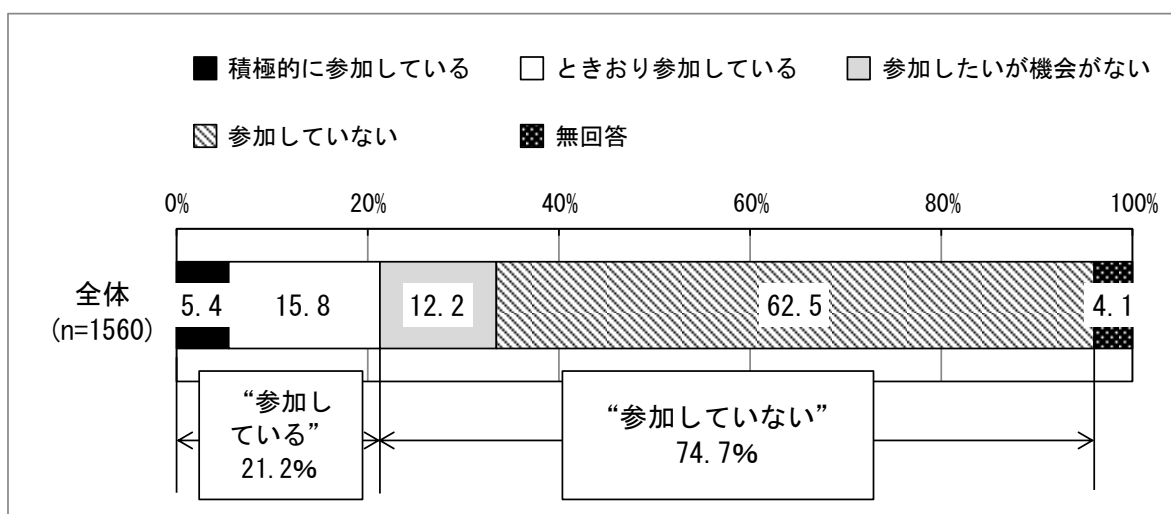
地域活動に“参加する”と回答した人(707人)に、参加したい地域活動を尋ねたところ、「自治会・子ども会・シルバークラブなどの地域活動」(52.6%)が第1位に挙げられ、次いで「地域の清掃・リサイクル活動」(46.0%)、「スポーツ・文化・学習活動」(37.5%)などの順となっている。



(3) ボランティア活動への参加状況

■“参加していない”が74.7%。一方、“参加している”は21.2%。

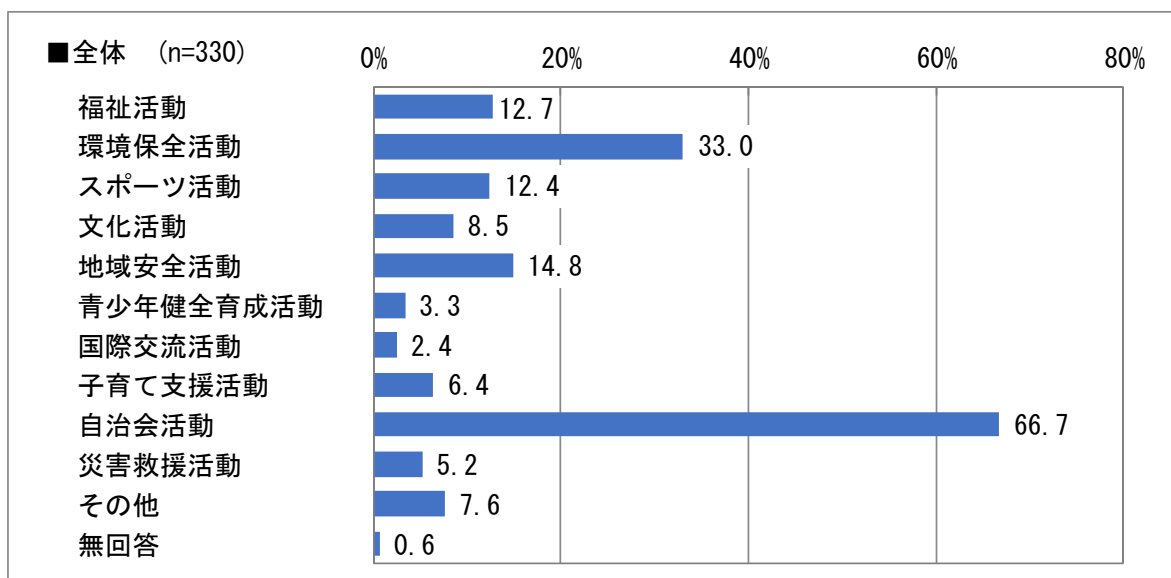
ボランティア活動への参加状況を見ると、「参加していない」が62.5%で最も多く、これに「参加したいが機会がない」(12.2%)を合わせた“参加していない”が74.7%となっている。一方、「積極的に参加している」(5.4%)と「ときおり参加している」(15.8%)を合わせた“参加している”は21.2%となっている。



(4) 参加しているボランティア活動

■「自治会活動」が第1位。次いで「環境保全活動」、「地域安全活動」などの順。

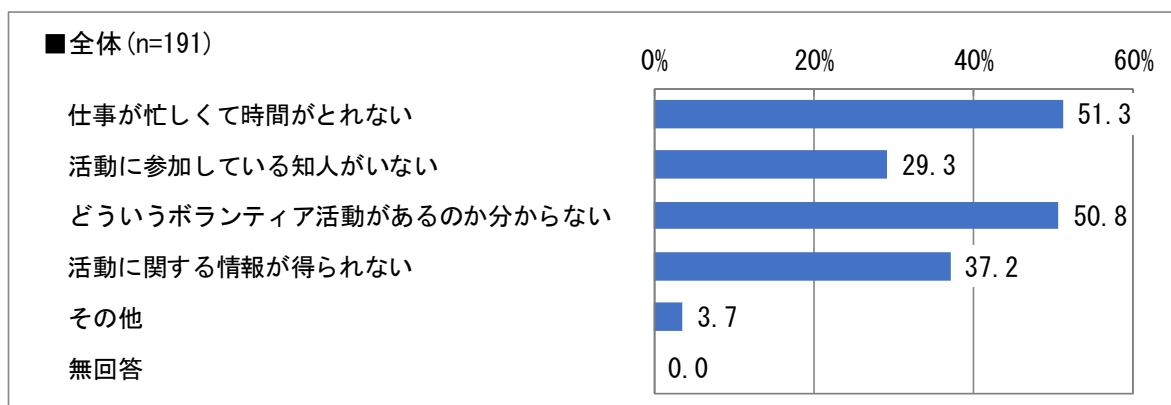
ボランティア活動に“参加している”と回答した人(330人)に参加しているボランティア活動を尋ねたところ、「自治会活動」(66.7%)が第1位に挙げられ、次いで「環境保全活動」(33.0%)、「地域安全活動」(14.8%)、「福祉活動」(12.7%)などの順となっている。



(5) 参加したいが機会がない理由

■「仕事が忙しくて時間がとれない」及び「どういうボランティア活動があるのか分からない」が主な理由。

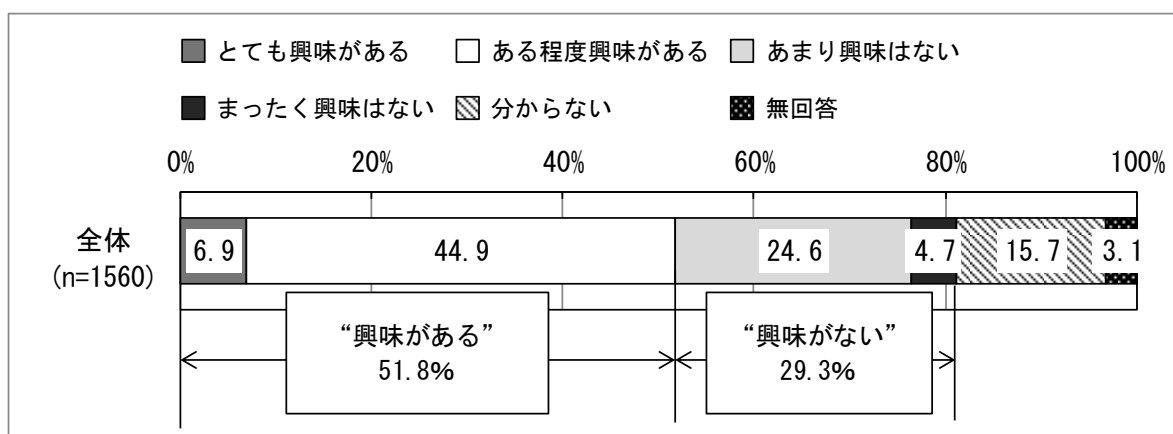
「参加したいが機会がない」と回答した人(191人)に、その理由を尋ねたところ、「仕事が忙しくて時間がとれない」が51.3%で第1位に挙げられ、次いで「どういうボランティア活動があるのか分からない」(50.8%)、「活動に関する情報が得られない」(37.2%)、「活動に参加している知人がいない」(29.3%)などの順となっている。



(6) 福祉活動への関心

■ “興味がある” が 51.8%。一方、“興味がない” が 29.3%。

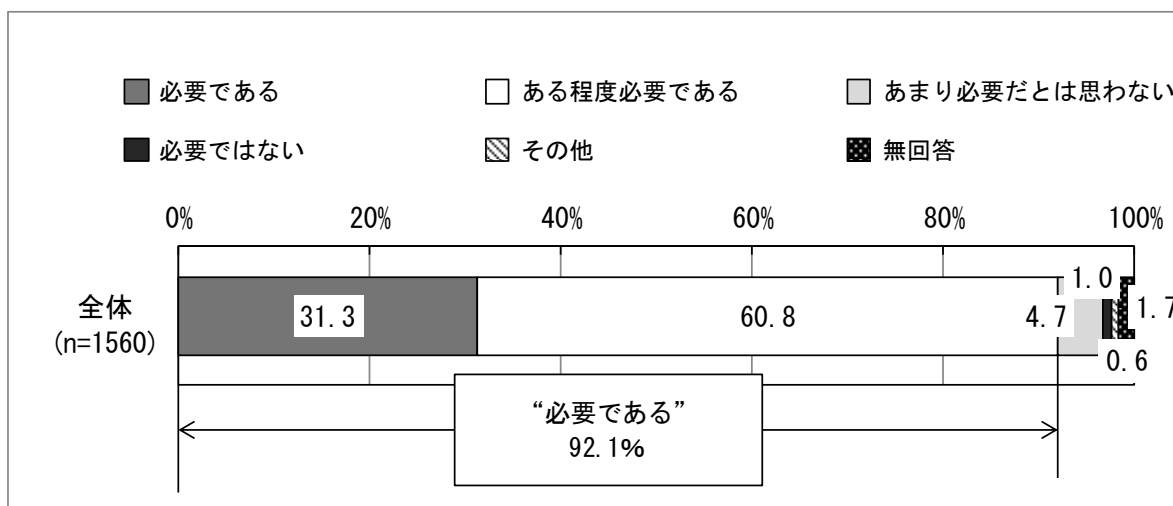
福祉活動への関心をみると、「ある程度興味がある」が 44.9%で最も多く、これに「とても興味がある」(6.9%) を合わせた“興味がある”が 51.8%と半数を超えている。一方、“興味がない”（「あまり興味はない」(24.6%) 及び「まったく興味はない」(4.7%) の合計）は 29.3%となっており、「分からない」は 15.7%であった。



(7) 地域住民の支え合いの必要性

■ “必要である” が 92.1%と 9 割を超える。

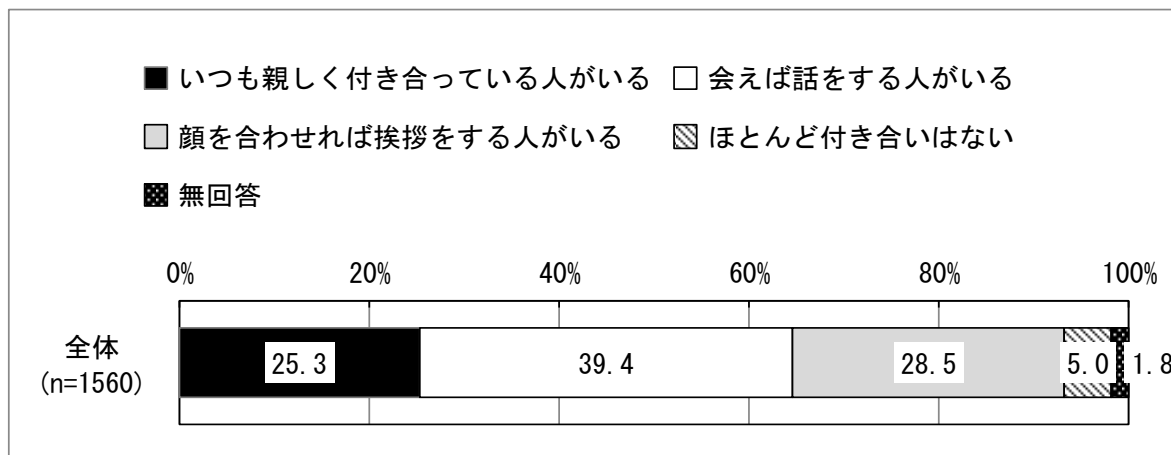
地域住民の支え合いの必要性については、「ある程度必要である」が 60.8%で最も多く、これに「必要である」(31.3%) を合わせた“必要である”が 92.1%と 9 割を超える。一方、“必要でない”（「必要ではない」(1.0%) 及び「あまり必要だとは思わない」(4.7%) の合計）はわずか 5.7%にとどまる。



(8) 近隣との付き合い

■「会えば話をする人がいる」が39.4%で最も多い。

近隣との付き合いについては、「会えば話をする人がいる」が39.4%で最も多く、次いで「顔を合わせれば挨拶をする人がいる」が28.5%、「いつも親しく付き合っている人がいる」が25.3%となっている。なお、「ほとんど付き合いはない」は5.0%にとどまる。

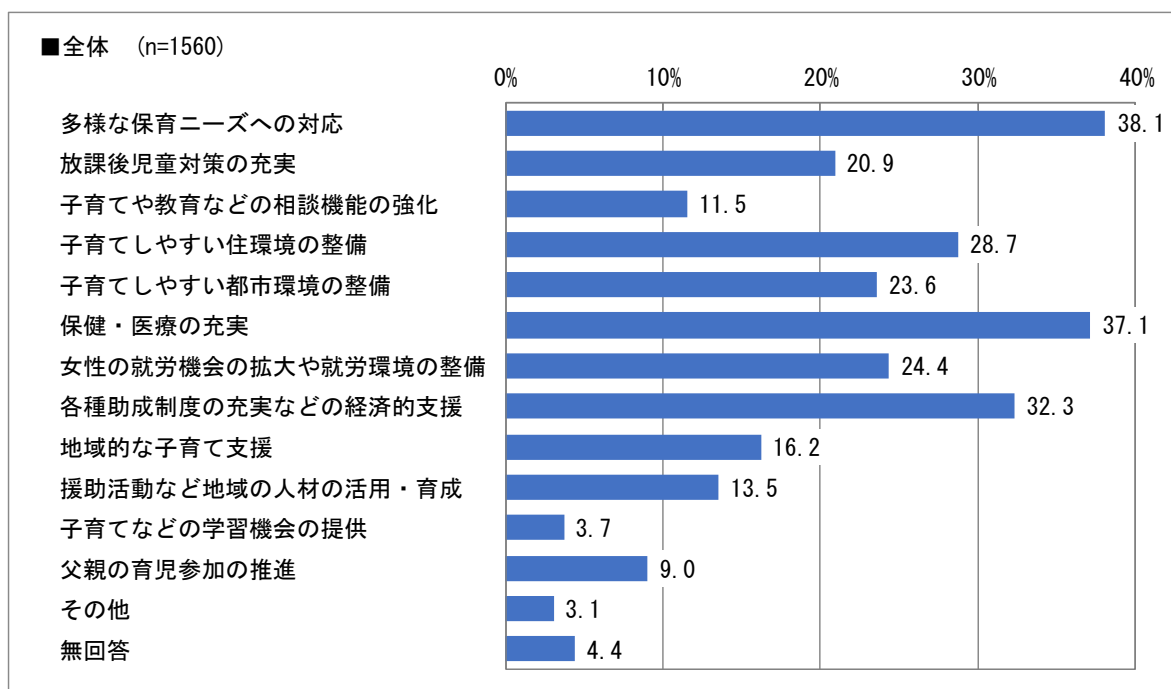


5 少子・高齢化への対応について

(1) 少子化社会に対応するために重要なこと

■「多様な保育ニーズへの対応」が第1位。次いで「保健・医療の充実」が続く。

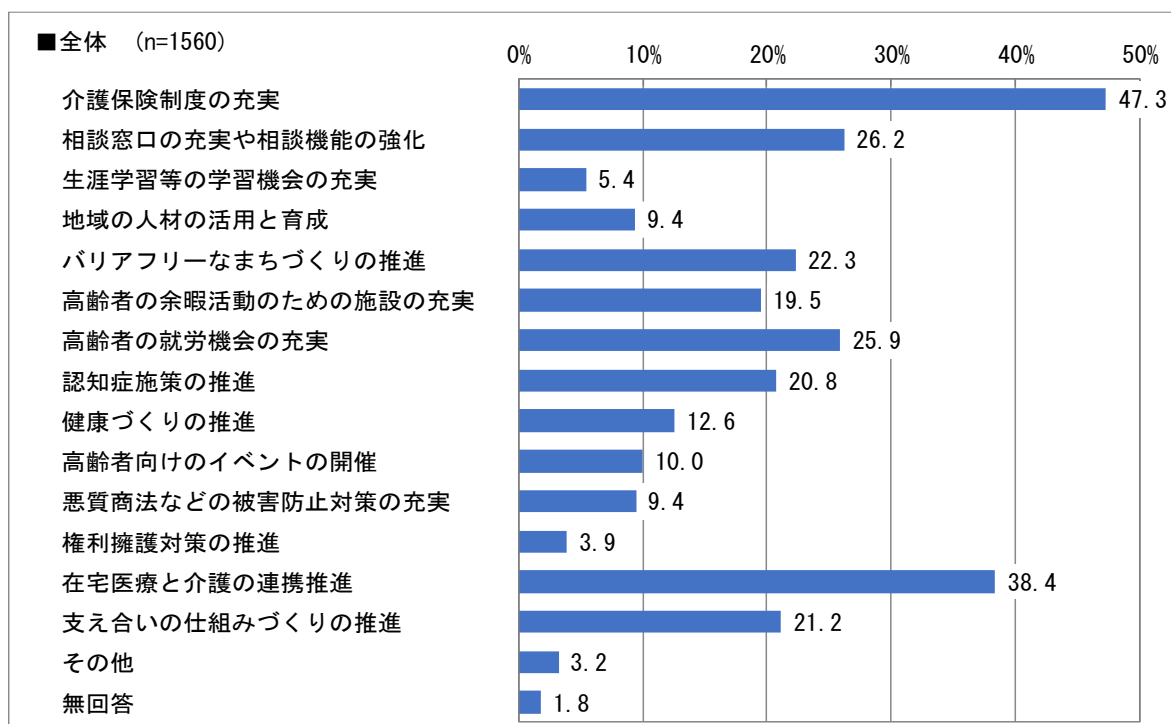
少子化社会に対応するために重要なことは、「多様な保育ニーズへの対応」(38.1%)が第1位に挙げられ、次いで「保健・医療の充実」(37.1%)、「各種助成制度の充実などの経済的支援」(32.3%)、「子育てしやすい住環境の整備」(28.7%)などの順となっている。



(2) 高齢化社会に対応するために重要なこと

■「介護保険制度の充実」が第1位。次いで「在宅医療と介護の連携推進」、「相談窓口の充実や相談機能の強化」、「高齢者の就労機会の充実」の順。

高齢化社会に対応するために重要なことは、「介護保険制度の充実」(47.3%)が第1位に挙げられ、次いで「在宅医療と介護の連携推進」(38.4%)、「相談窓口の充実や相談機能の強化」(26.2%)、「高齢者の就労機会の充実」(25.9%)などの順となっている。

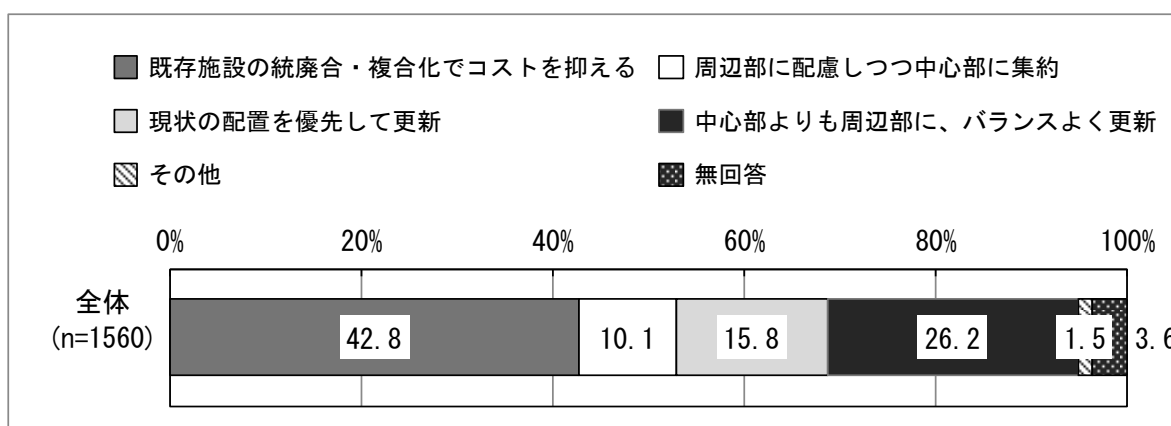


6 施設・都市機能について

(1) 施設や都市機能整備のありかた

■「既存施設の統廃合・複合化でコストを抑える」が約4割を占める。

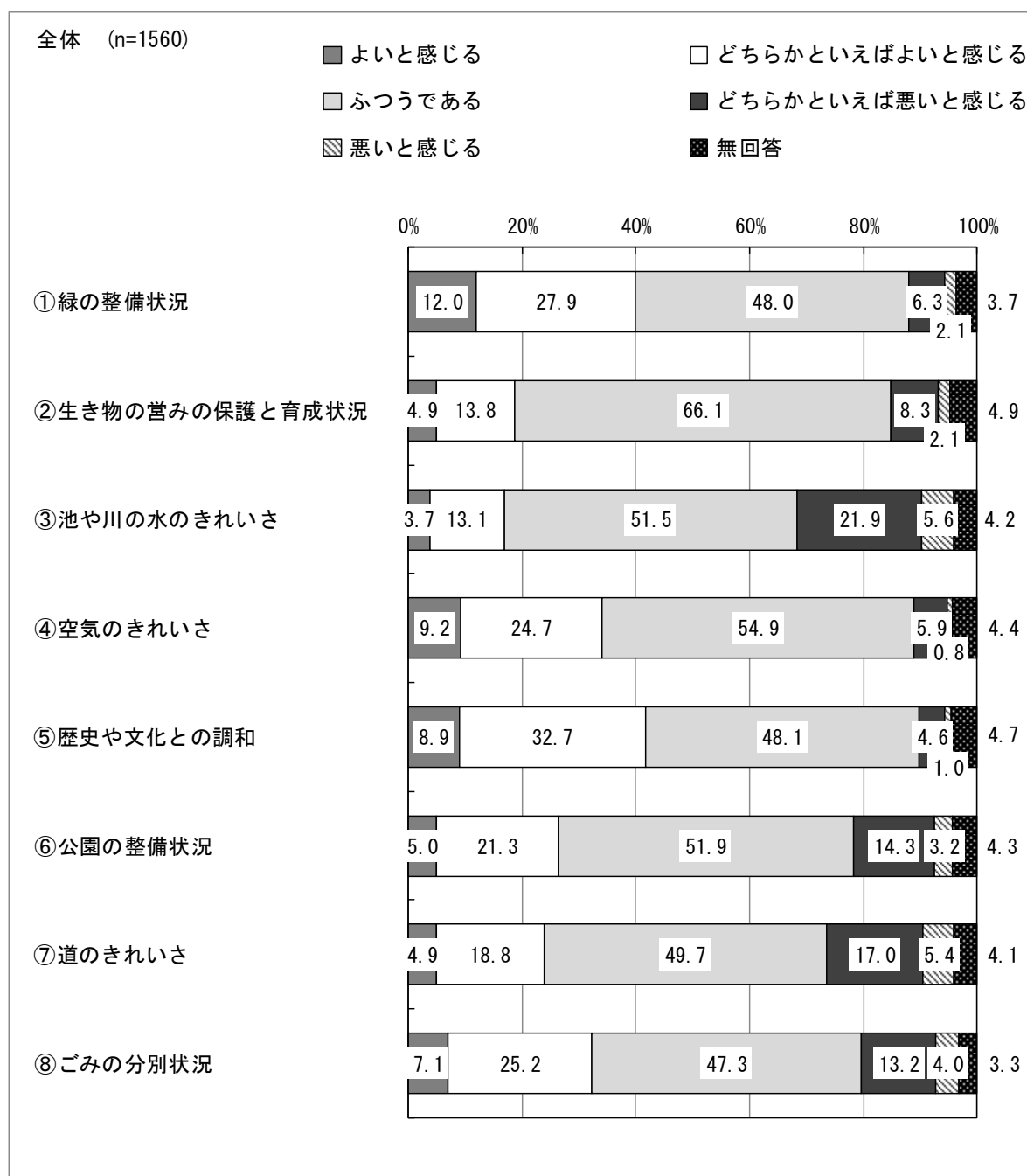
施設や都市機能整備のありかたについては、「既存施設の統廃合・複合化でコストを抑える」が42.8%と最も多く、次いで「中心部よりも周辺部に、バランスよく更新」(26.2%)、「現状の配置を優先して更新」(15.8%)、「周辺部に配慮しつつ中心部に集約」(10.1%)の順となっている。



(2) 市の環境

■ “よい”と回答した割合は『⑤歴史や文化との調和』『①緑の整備状況』で多く、一方“悪い”は『③池や川の水のきれいさ』『⑦道のきれいさ』が多い。

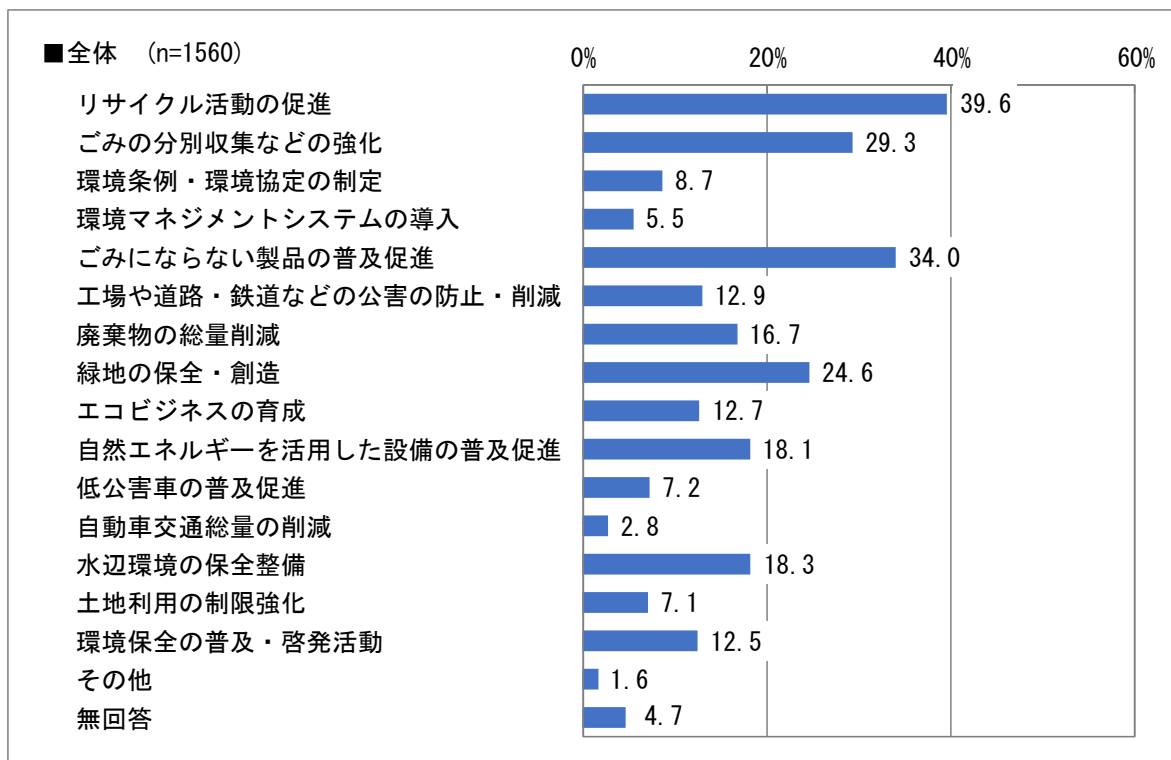
市の環境について、8つの項目を設定して尋ねたところ、“よい”（「よいと感じる」及び「どちらかといえばよいと感じる」の合計）が最も多い項目は『⑤歴史や文化との調和』（41.6%）となっており、次いで『①緑の整備状況』（39.9%）が続く。一方、“悪い”（「どちらかといえば悪いと感じる」及び「悪いと感じる」の合計）は『③池や川の水のきれいさ』（27.5%）で最も多く、次いで『⑦道のきれいさ』（22.4%）が続く。



(3) 環境保全・改善のために強化すべき活動

■「リサイクル活動の促進」が第1位。次いで「ごみにならない製品の普及促進」が続く。

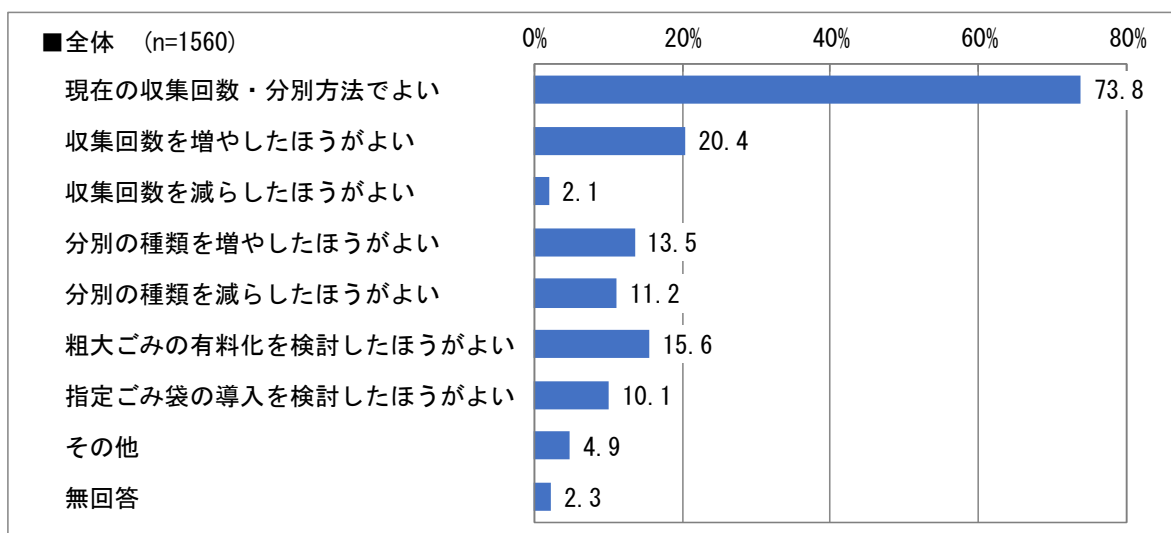
環境保全・改善のために強化すべき活動は、「リサイクル活動の促進」(39.6%)が第1位に挙げられ、次いで「ごみにならない製品の普及促進」(34.0%)、「ごみの分別収集などの強化」(29.3%)、「緑地の保全・創造」(24.6%)などの順となっている。



(4) 市のごみ収集体制

■「現在の収集回数・分別方法でよい」が他を大きく引き離して第1位。

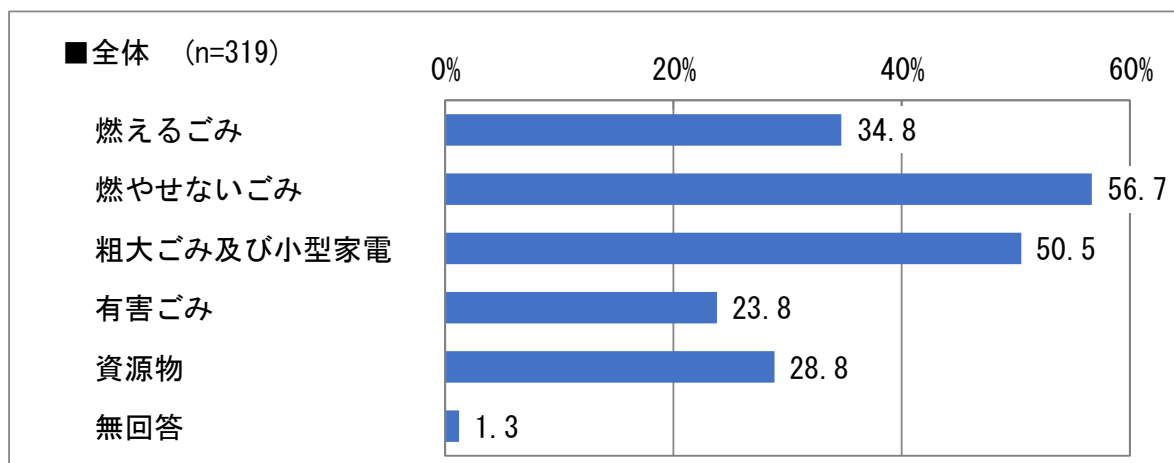
ごみの収集回数については、「現在の収集回数・分別方法でよい」(73.8%)が他を大きく引き離して第1位となっており、多数の人が現状維持を望んでいることがうかがえる。次いで「収集回数を増やしたほうがよい」(20.4%)が続く。



(5) 収集回数を増やしたほうがよいごみ

■収集回数を増やしたほうがよいごみは、「燃やせないごみ」及び「粗大ごみ及び小型家電」。

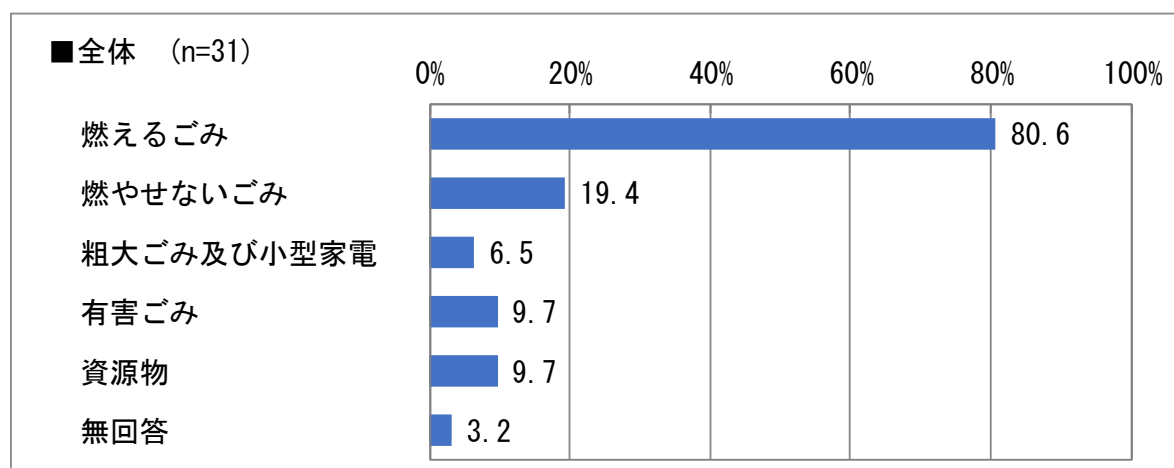
ごみ収集回数を増やしたほうがよいと回答した人（319人）にその種類を尋ねたところ、「燃やせないごみ」（56.7%）及び「粗大ごみ及び小型家電」（50.5%）が上位に挙げられている。



(6) 収集回数を減らしたほうがよいごみ

■収集回数を減らしたほうがよいごみは「燃えるごみ」。

ごみ収集回数を減らしたほうがよいと回答した人（31人）にその種類を尋ねたところ、「燃えるごみ」（80.6%）が他を大きく引き離して第1位に挙げられている。

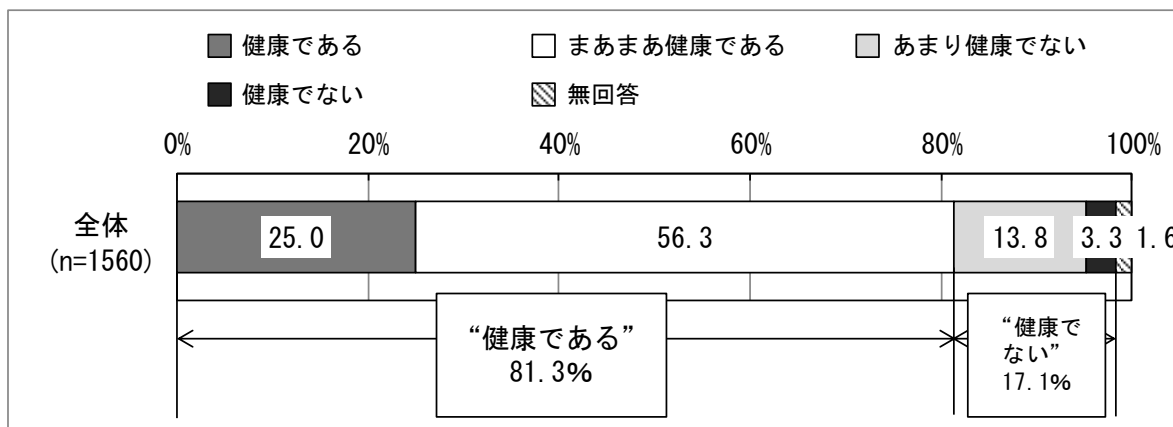


7 健康について

(1) 自分が健康だと思うか

■ “健康である” は 81.3%。一方、“健康でない” は 17.1%。

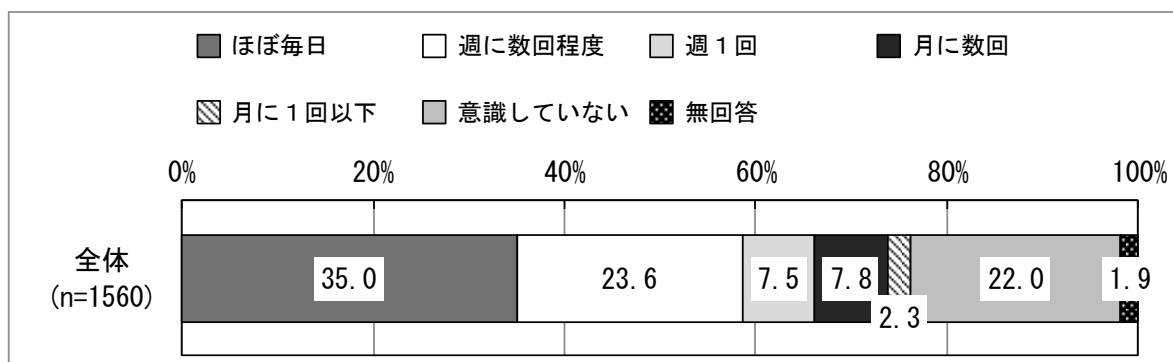
自分の健康については、「まあまあ健康である」が 56.3%で最も多く、これに「健康である」(25.0%) を合わせた“健康である”が 81.3%と 8 割を超える。一方、“健康でない”（「健康でない」及び「あまり健康でない」の合計）は 17.1%となっている。



(2) どのくらい体を動かしているか

■ 「ほぼ毎日」が 35.0%で最も多く、体を動かすことを意識している人は 7 割以上となっている。

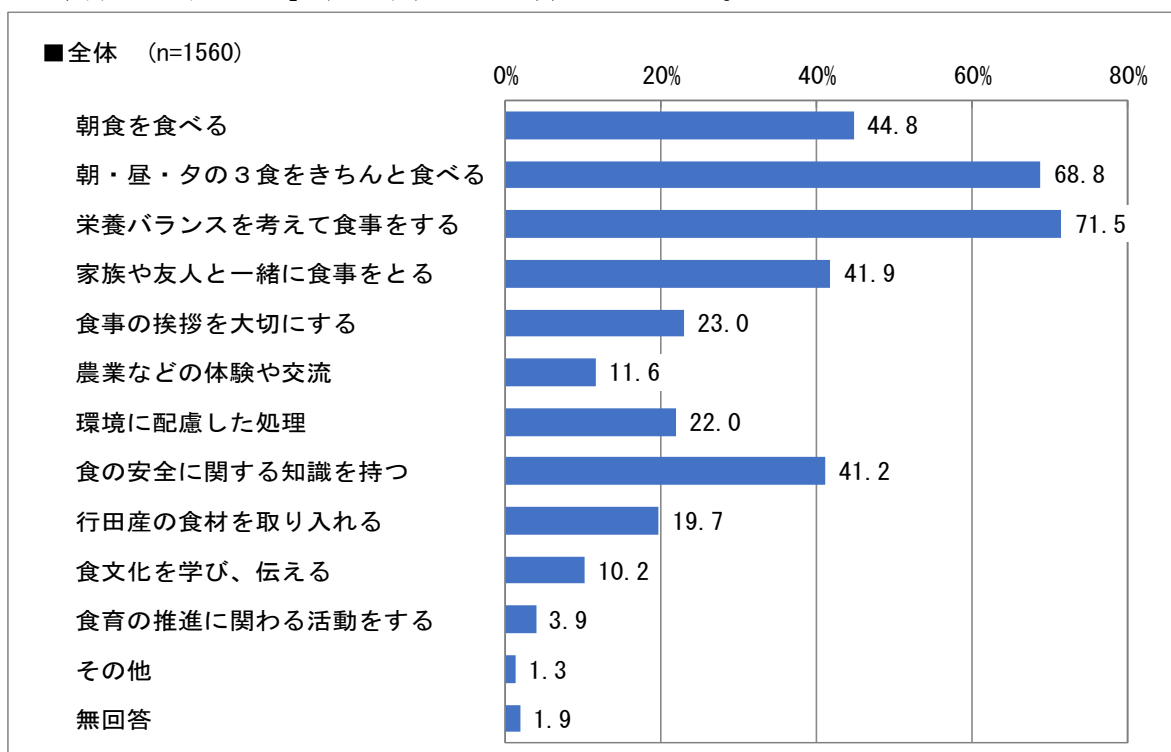
どのくらい体を動かしているかについては、「ほぼ毎日」が 35.0%で最も多く、「週に数回程度」が 23.6%、「週 1 回」が 7.5%、「月に数回」が 7.8%、「月に 1 回以下」が 2.3%となっており、これらを合わせた体を動かすことを意識している人は 76.2%と 7 割を超える。一方、「意識していない」は 22.0%であった。



(3) 食育への取組

■「栄養バランスを考えて食事をする」及び「朝・昼・夕の3食をきちんと食べる」が上位を占める。

食育への取組については、「栄養バランスを考えて食事をする」(71.5%)及び「朝・昼・夕の3食をきちんと食べる」(68.8%)がほぼ7割となっており、他を大きく引き離して上位を占める。次いで「朝食を食べる」(44.8%)、「家族や友人と一緒に食事をとる」(41.9%)、「食の安全に関する知識を持つ」(41.2%)などの順となっている。

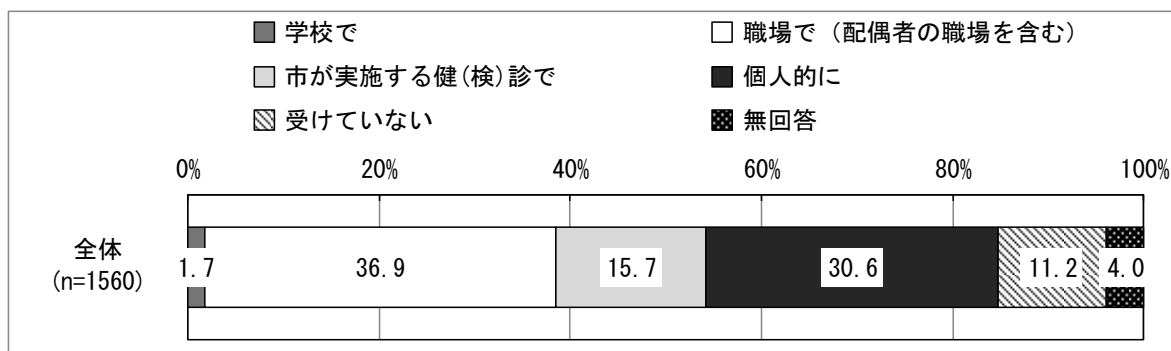


(4) 健康診断や検査の受診

① 血圧、血液検査などの健康診査

■「職場で(配偶者の職場を含む)」が36.9%で最も多く、次いで「個人的に」が30.6%で続き、受診した人は合わせて8割を超える。一方、「受けていない」は11.2%。

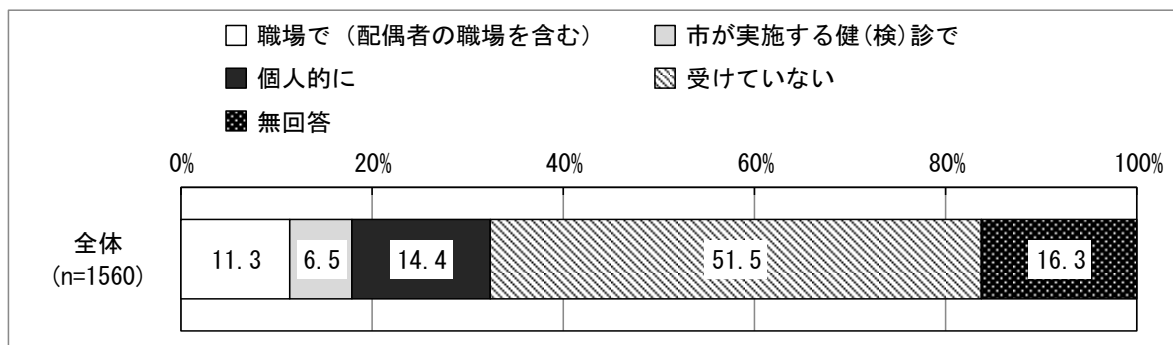
血圧、血液検査などの健康診査については、「職場で(配偶者の職場を含む)」が36.9%で最も多く、次いで「個人的に」(30.6%)、「市が実施する健診で」(15.7%)、「学校で」(1.7%)となっており、これらを合わせた受診した人は84.9%となっている。なお、「受けていない」は11.2%であった。



②胃がん検診

■「受けていない」が51.5%。一方、受診した人は32.2%。

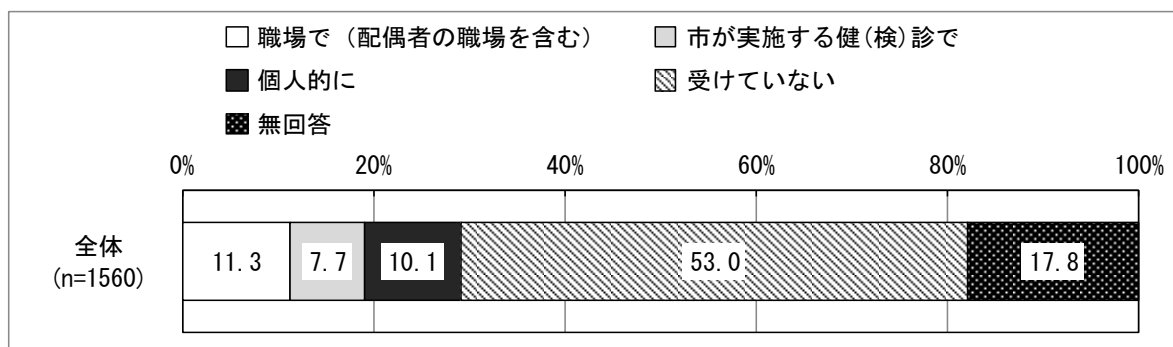
胃がん検診については、「受けていない」が51.5%と半数以上を占め、「個人的に」が14.4%、「職場で（配偶者の職場を含む）」が11.3%、「市が実施する健診で」が6.5%となっており、受診した人は合わせて32.2%であった。



③肺がん検診

■「受けていない」が53.0%。一方、受診した人は29.1%。

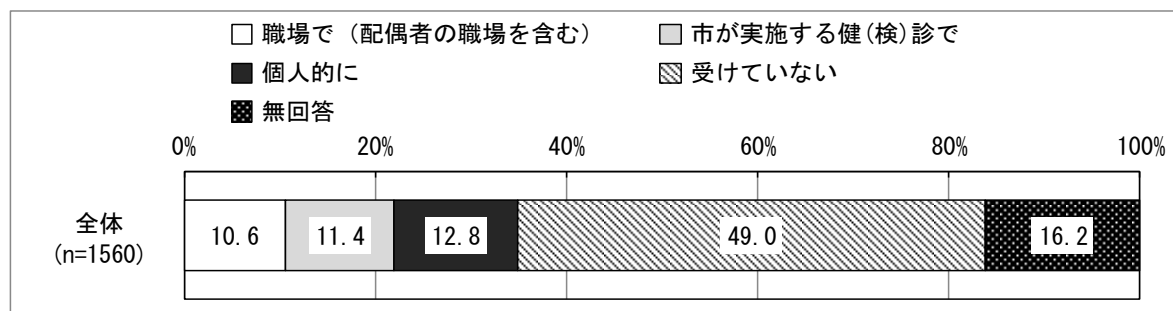
肺がん検診については、「受けていない」が53.0%と半数以上を占め、「職場で（配偶者の職場を含む）」が11.3%、「個人的に」が10.1%、「市が実施する健診で」が7.7%となっており、受診した人は合わせて29.1%であった。



④大腸がん検診

■「受けていない」が49.0%。一方、受診した人は34.8%。

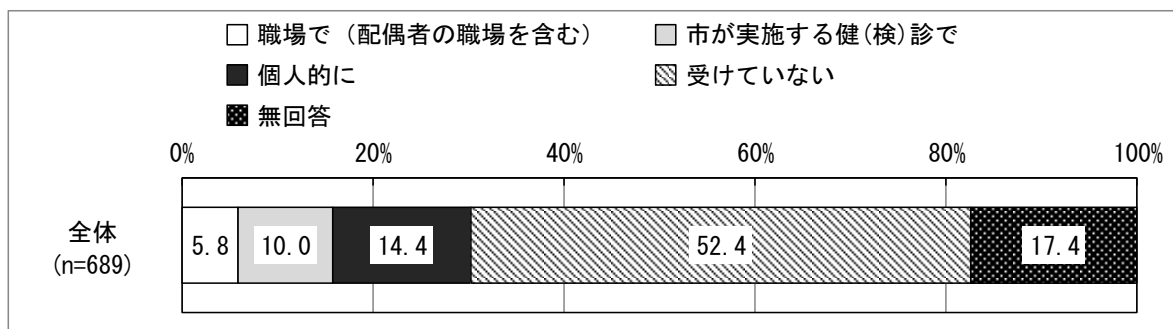
大腸がん検診については、「受けていない」が49.0%で約半数を占め、「個人的に」が12.8%、「市が実施する健診で」が11.4%、「職場で（配偶者の職場を含む）」が10.6%となっており、受診した人は合わせて34.8%であった。



⑤前立腺がん検診(男性のみ)

■「受けていない」が52.4%。一方、受診した人は30.2%。

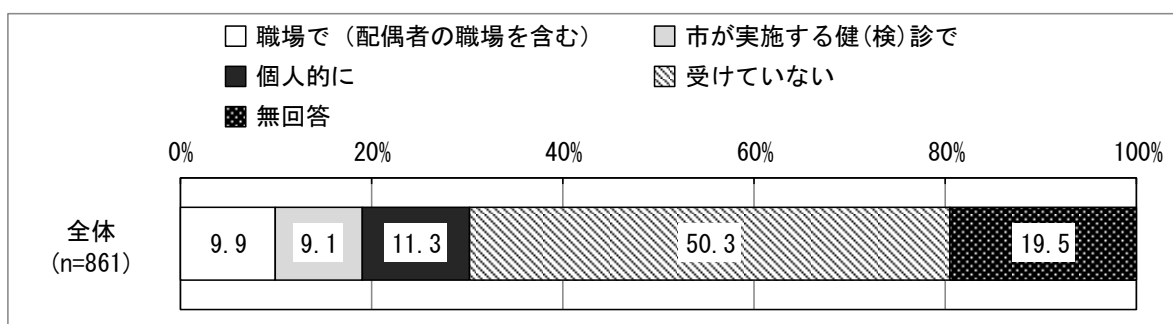
前立腺がん検診については、「受けていない」が52.4%と半数以上を占め、受診した人では「個人的に」が14.4%、「市が実施する健診で」が10.0%、「職場で（配偶者の職場を含む）」が5.8%となっており、受診した人は合わせて30.2%であった。



⑥乳がん検診(女性のみ)

■「受けていない」が50.3%。一方、受診した人は30.3%。

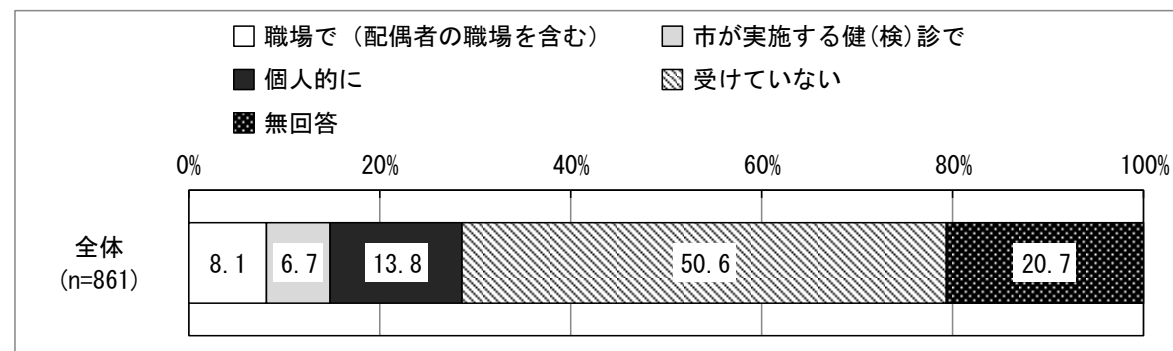
乳がん検診については、「受けていない」が50.3%とほぼ半数を占め、「個人的に」が11.3%、「職場で（配偶者の職場を含む）」が9.9%、「市が実施する健診で」が9.1%となっており、受診した人は合わせて30.3%であった。



⑦子宮がん検診(女性のみ)

■「受けていない」が50.6%。

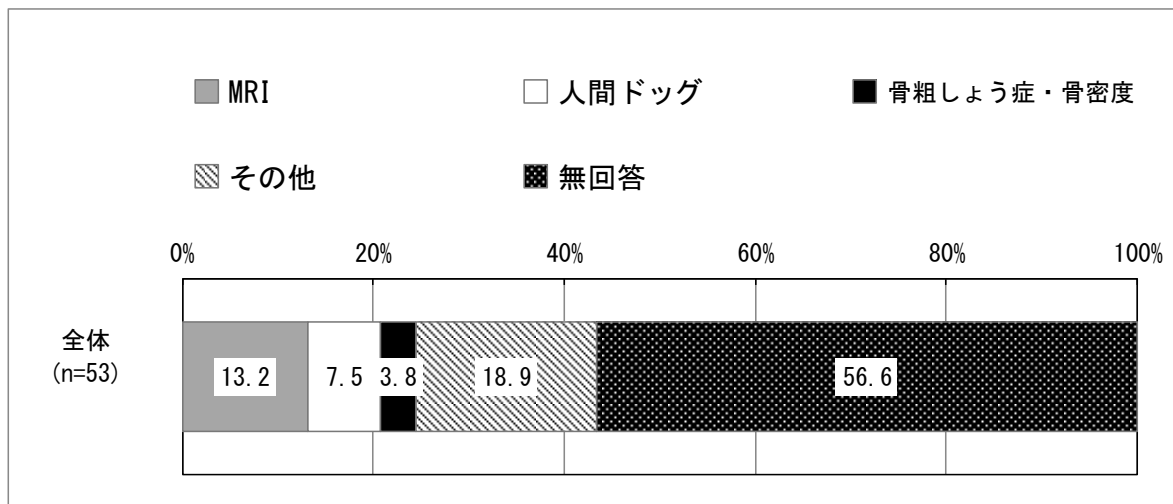
子宮がん検診については、「受けていない」が50.6%と約半数を占め、「個人的に」が13.8%、「職場で（配偶者の職場を含む）」が8.1%、「市が実施する健診で」が6.7%となっており、受診した人は合わせて28.6%であった。



⑧その他の検査

■その他の検査として、具体的には「MRI」、「人間ドック」など。

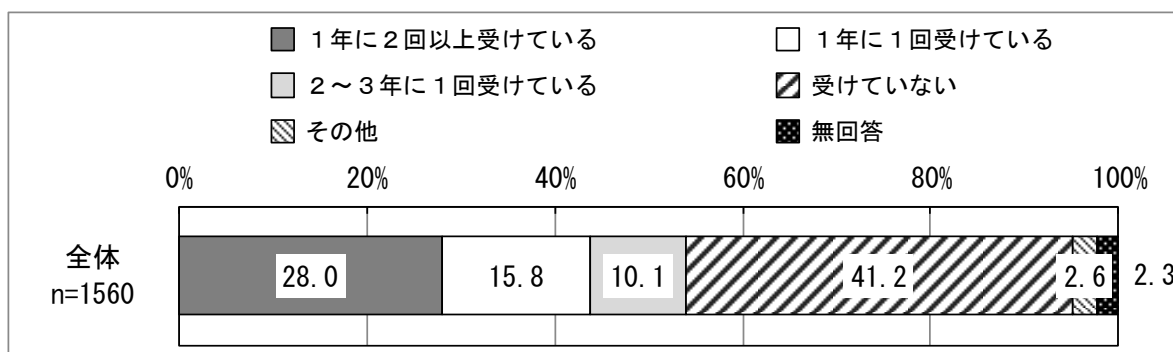
その他の検査について記入した人（53人）の記入された内容を集約すると、「MRI」が13.2%で最も多く、次いで「人間ドック」（7.5%）、「骨粗しょう症・骨密度」（3.8%）の順となっている。また、受診方法については、多くの人々が「個人的に」という回答となっている。



(5) 定期的な歯科検診

■定期的に歯科検診を受けている人は53.9%。

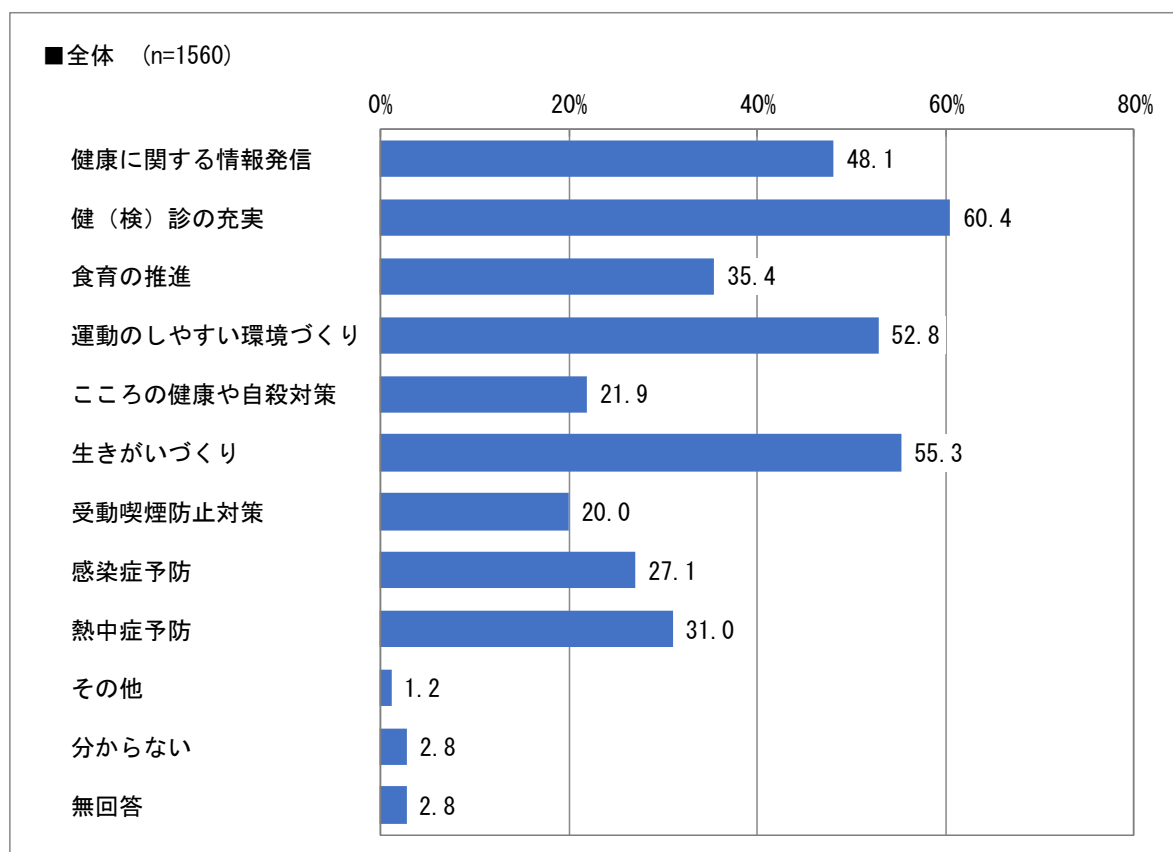
歯科検診の受診について、「1年に2回以上受けている」が28.0%で最も多く、「1年に1回受けている」が15.8%、「2～3年に1回受けている」が10.1%で、これらを合わせた定期的な受診している人は53.9%となっている。また、「受けていない」と回答した人は41.2%であった。



(6) 健康増進や健康寿命の延伸のために必要な施策

■「健（検）診の充実」が第1位に挙げられ、次いで「生きがいつくり」、「運動のしやすい環境づくり」の順。

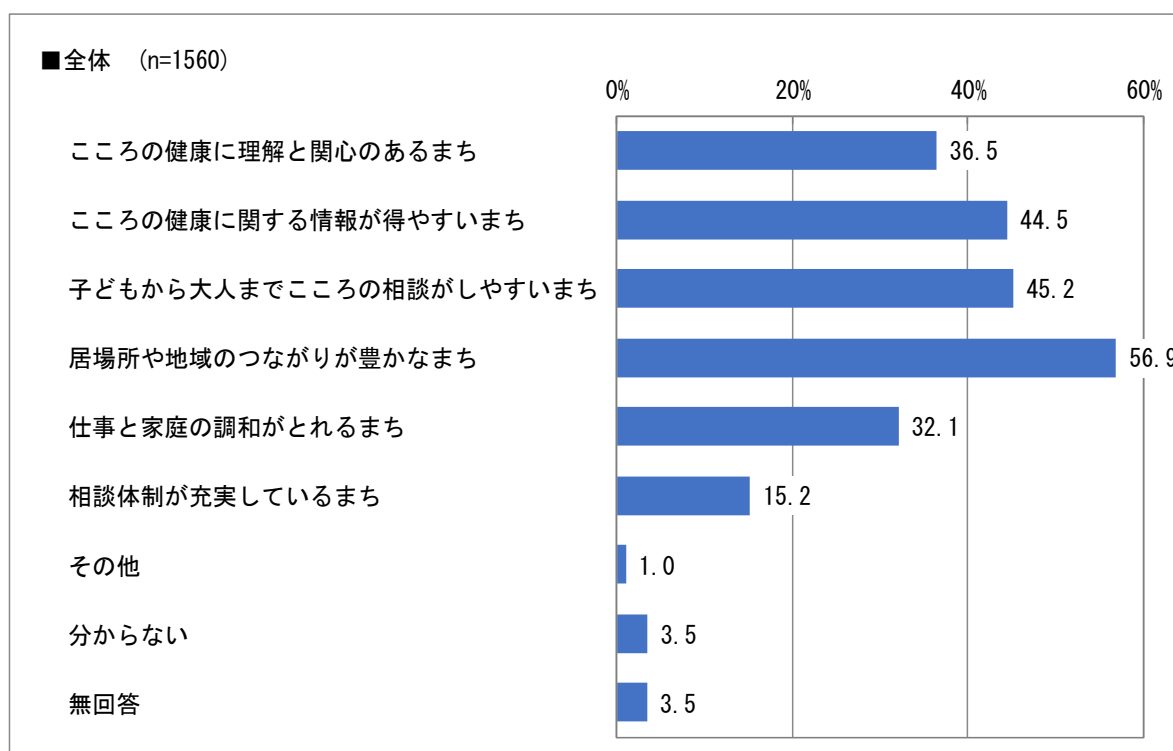
健康増進や健康寿命の延伸のために必要な施策は、「健（検）診の充実」（60.4%）が第1位に挙げられ、次いで「生きがいつくり」（55.3%）、「運動のしやすい環境づくり」（52.8%）、「健康に関する情報発信」（48.1%）などの順となっている。



(7) こころの健康づくりや自殺予防

■「居場所や地域のつながりが豊かなまち」が第1位に挙げられ、次いで「子どもから大人までこころの相談がしやすいまち」、「こころの健康に関する情報が得やすいまち」の順。

こころの健康づくりや自殺予防のために、どんなまちになったらよいかについて尋ねたところ、「居場所や地域のつながりが豊かなまち」(56.9%)が第1位に挙げられ、次いで「子どもから大人までこころの相談がしやすいまち」(45.2%)、「こころの健康に関する情報が得やすいまち」(44.5%)、「こころの健康に理解と関心のあるまち」(36.5%)、「仕事と家庭の調和がとれるまち」(32.1%)などの順となっている。

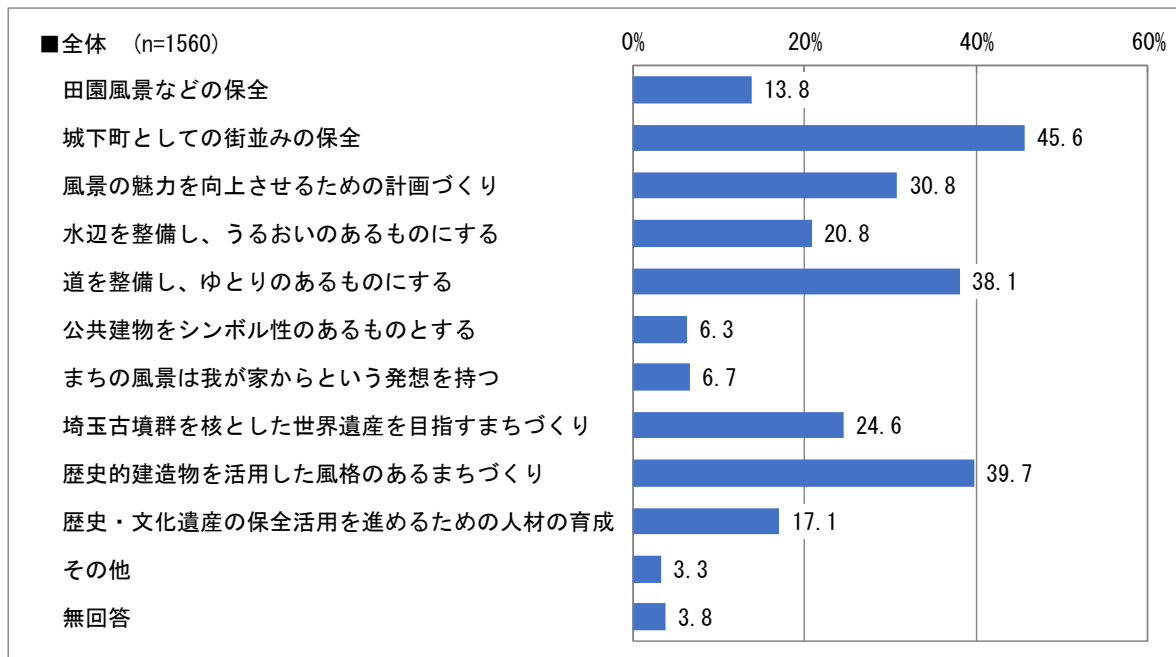


8 景観について

(1) 魅力ある景観づくりに重要なこと

■「城下町としての街並みの保全」が第1位に挙げられ、次いで「歴史的建造物を活用した風格のあるまちづくり」、「道を整備し、ゆとりのあるものにする」が続く。

歴史を生かした魅力ある景観づくりに重要なことは、「城下町としての街並みの保全」(45.6%)が第1位に挙げられ、次いで「歴史的建造物を活用した風格のあるまちづくり」(39.7%)、が続き、以下、「道を整備し、ゆとりのあるものとする」(38.1%)、「風景の魅力を向上させるための計画づくり」(30.8%)などの順となっている。

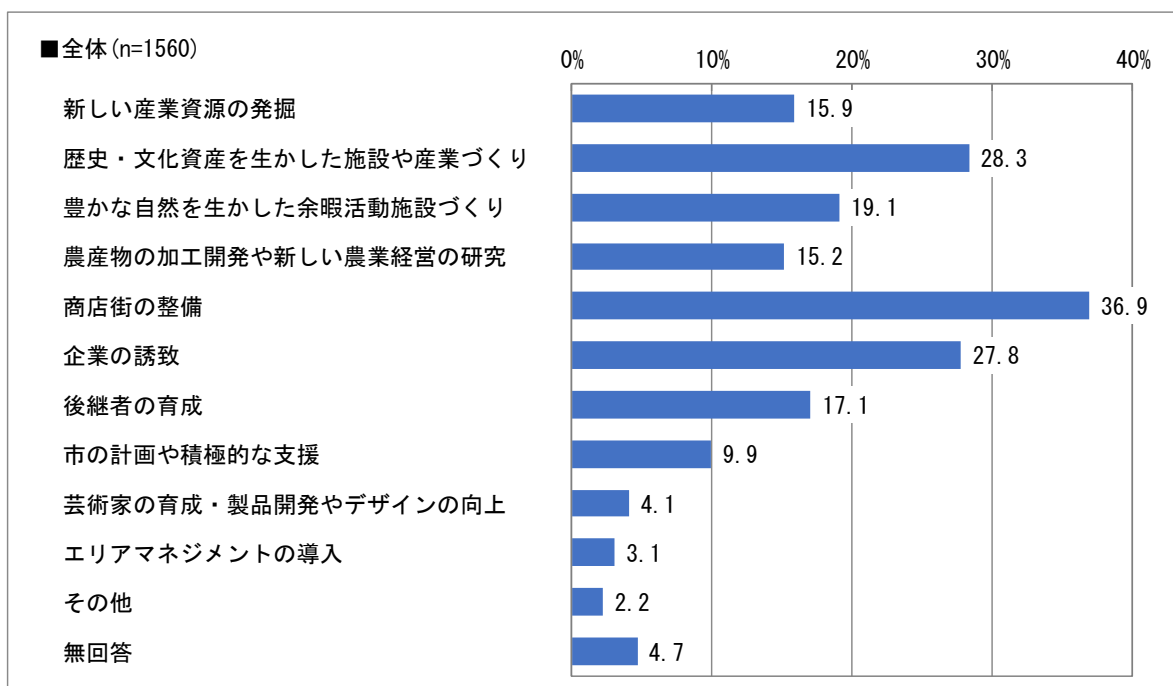


9 産業振興について

(1) 商業や産業の振興に重要なこと

■「商店街の整備」が第1位に挙げられ、次いで「歴史・文化資産を生かした施設や産業づくり」が続く。

商業や産業の振興に重要なことは、「商店街の整備」(36.9%)が第1位に挙げられ、次いで「歴史・文化資産を生かした施設や産業づくり」(28.3%)、「企業の誘致」(27.8%)、「豊かな自然を生かした余暇活動施設づくり」(19.1%)、「後継者の育成」(17.1%)などの順となっている。

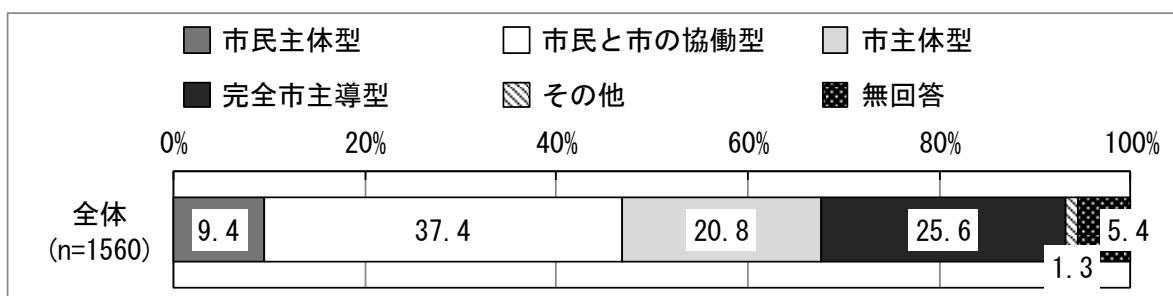


10 公園の管理について

(1) 地域の公園の望ましい維持管理体制

■「市民と市の協働型」が37.4%で最も多く、次いで「完全市主導型」が25.6%で続く。

公園の維持管理については、「市民と市の協働型」が37.4%で最も多く、次いで「完全市主導型」が25.6%、「市主体型」が20.8%、「市民主体型」が9.4%となっている。

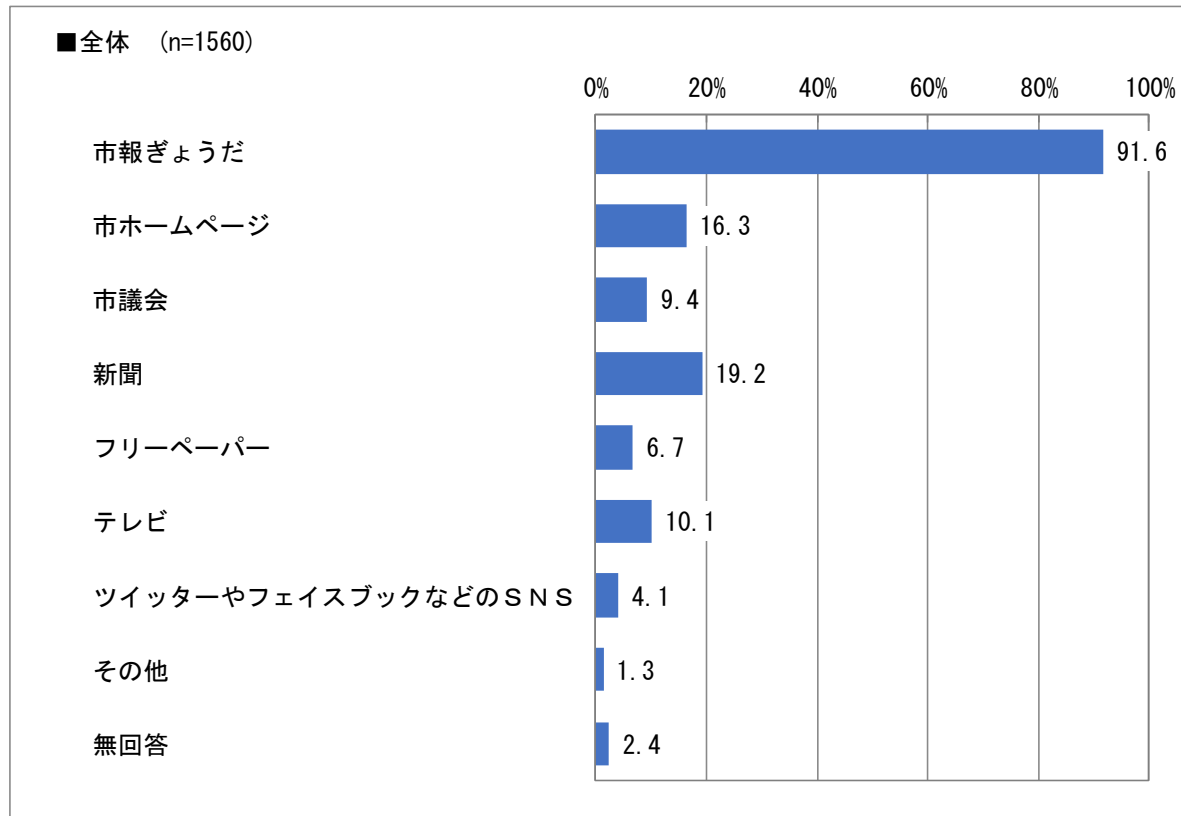


11 市の情報について

(1) 市政情報の入手元

■「市報ぎょうだ」から9割が市政情報を得ている。

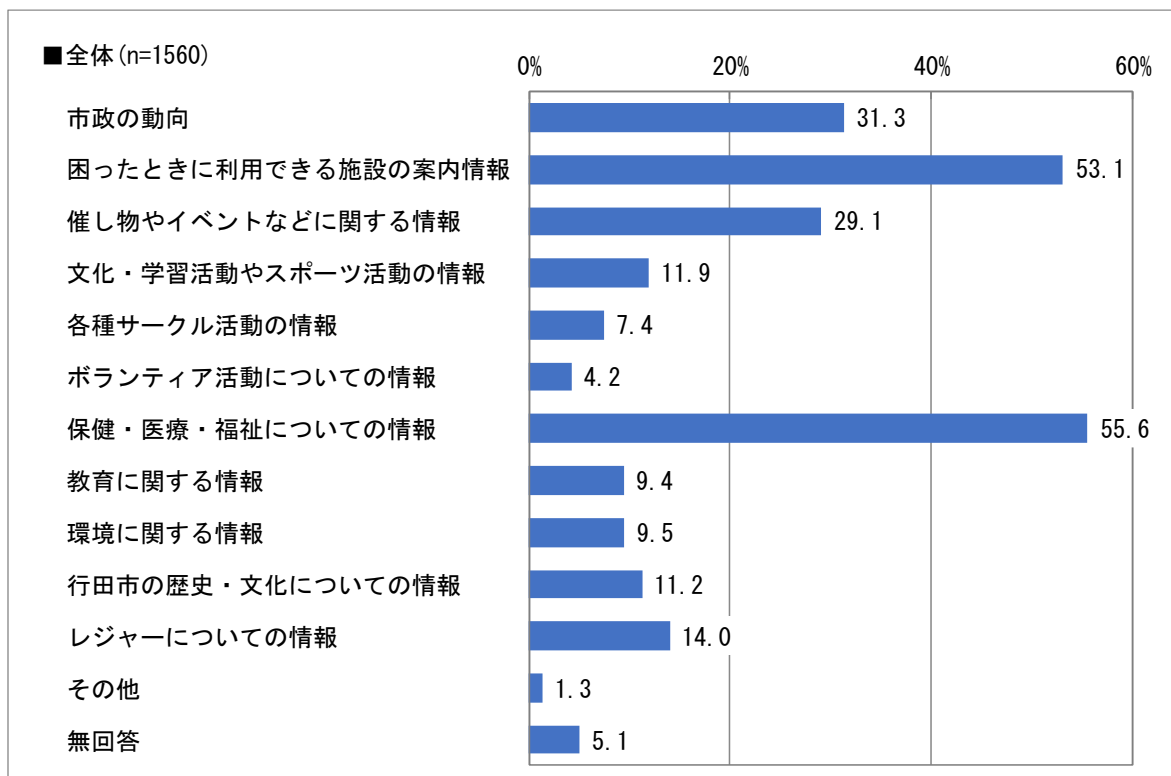
何から市政情報を得ているかを尋ねたところ、「市報ぎょうだ」(91.6%)が他を大きく引き離して第1位に挙げられている。次いで「新聞」(19.2%)、「市ホームページ」(16.3%)、「テレビ」(10.1%)の順となっている。



(2) 詳しく知りたい市の情報

■詳しく知りたい2大情報は、「保健・医療・福祉についての情報」及び「困ったときに利用できる施設の案内情報」。

市から提供される情報の中で詳しく知りたい情報としては、「保健・医療・福祉についての情報」(55.6%)が第1位に挙げられ、次いで「困ったときに利用できる施設の案内情報」(53.1%)が続き、これらが他を引き離して知りたい2大情報となっている。

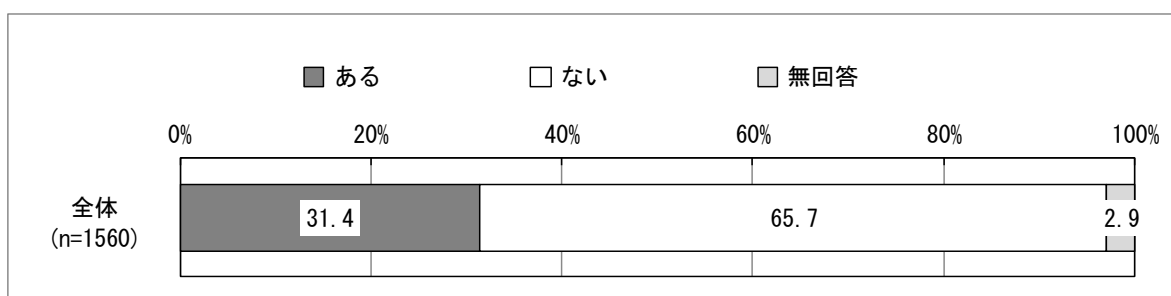


12 市内循環バス、デマンドタクシーについて

(1) 市内循環バスの利用状況

■市内循環バスを利用したことがあるが約3割。

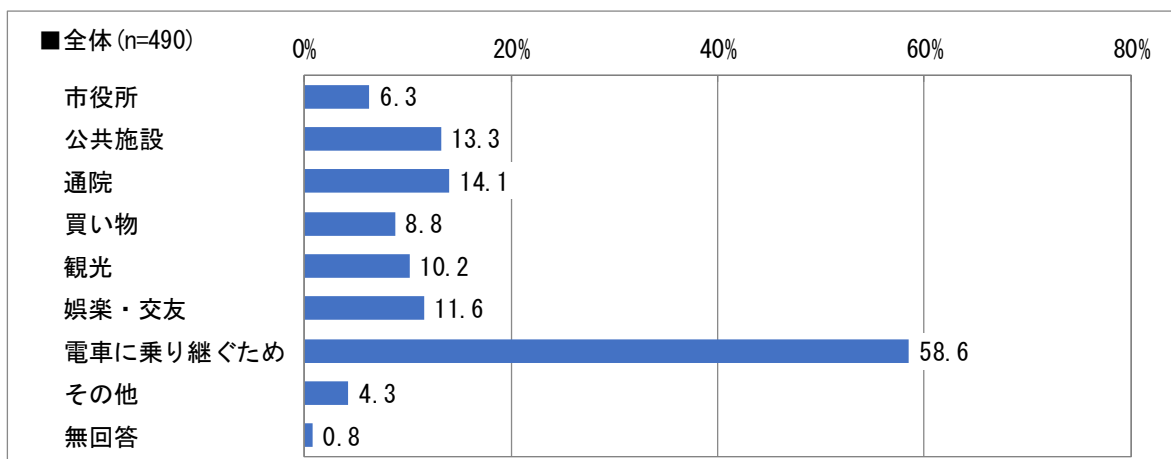
市内循環バスの利用については、「ある」が31.4%と約3割となっている。一方、「ない」は65.7%となっている。



(2) 市内循環バスの利用目的

■利用目的は「電車に乗り継ぐため」が半数以上を占める。

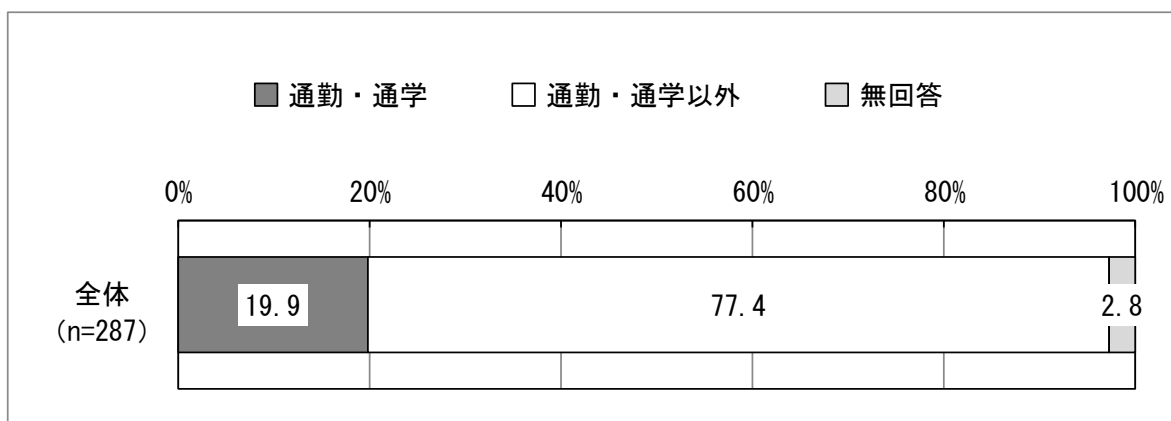
市内循環バスを利用したことのある人（490人）に利用目的を尋ねたところ、「電車に乗り継ぐため」が58.6%と半数以上を占め、次いで「通院」（14.1%）、「公共施設」（13.3%）、「娯楽・交友」（11.6%）、「観光」（10.2%）などの順となっている。



(3) 電車乗り継ぎの利用目的

■電車乗り継ぎのために市内循環バスを利用している人の目的は、「通勤・通学以外」が77.4%と8割近くを占め、「通勤・通学」は19.9%となっている。

電車乗り継ぎのために市内循環バスを利用している人（287人）に、その目的を尋ねたところ、「通勤・通学以外」が77.4%と8割近くを占め、「通勤・通学」は19.9%となっている。

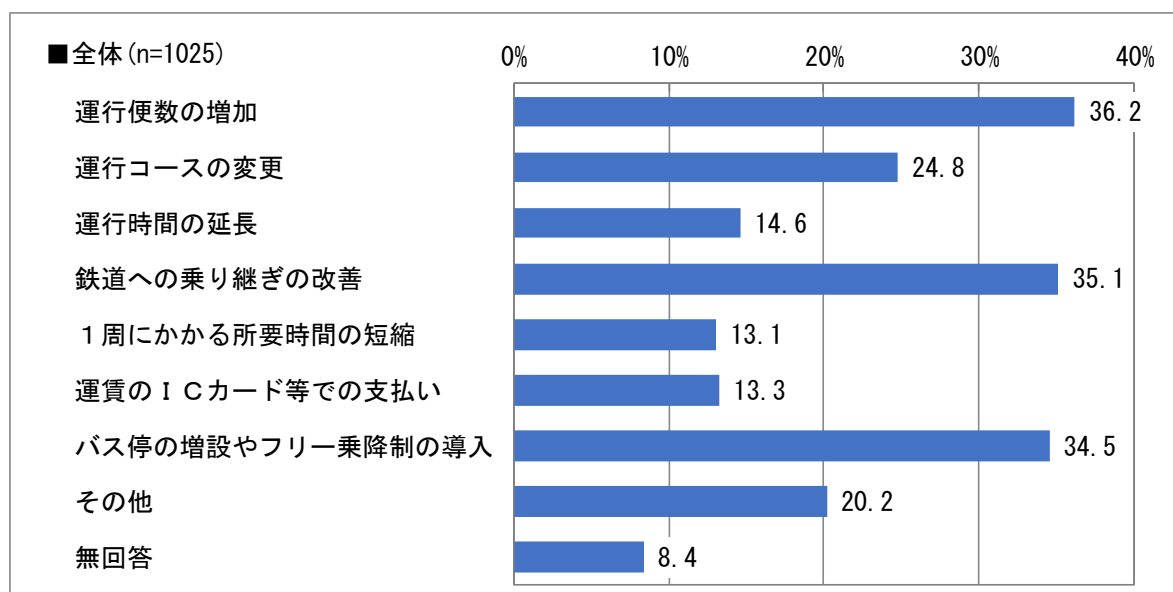


(4) 市内循環バスの今後の利用条件

■「運行便数の増加」が第1位。次いで「鉄道への乗り継ぎの改善」、「バス停の増設やフリー乗降制の導入」の順。

市内循環バスを利用したことがない人(1,025人)に今後の利用条件を尋ねたところ、「運行便数の増加」(36.2%)が第1位に挙げられ、次いで「鉄道への乗り継ぎの改善」(35.1%)、

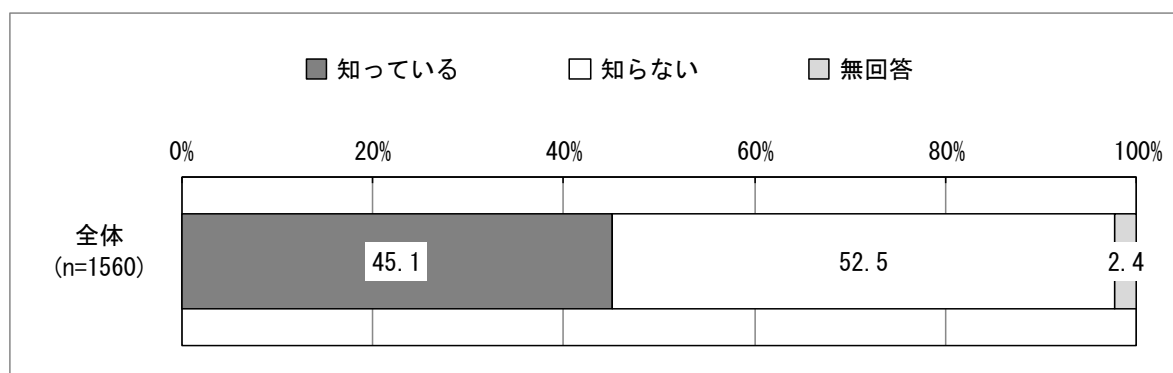
「バス停の増設やフリー乗降制の導入」(34.5%)、「運行コースの変更」(24.8%)などの順となっている。



(5) デマンドタクシーについて

■「知らない」が52.5%と半数以上。

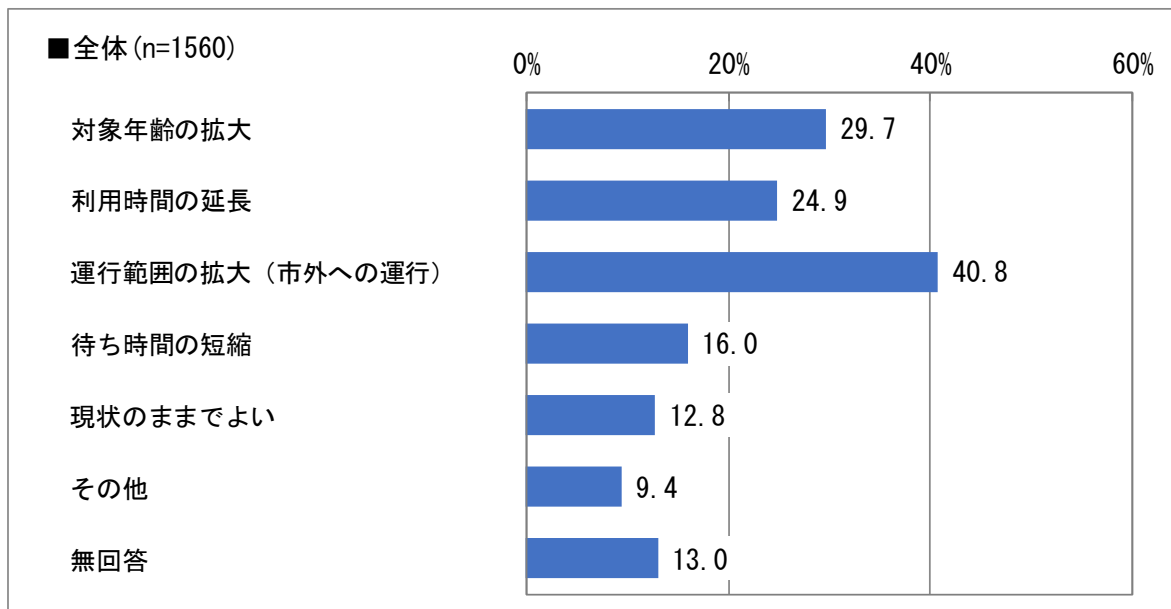
デマンドタクシーについて知っているかを尋ねたところ、「知らない」が52.5%となっている。一方、「知っている」が45.1%となっている。



(6) デマンドタクシーの検討すべき点

■「運行範囲の拡大（市外への運行）」が第1位に挙げられ、次いで「対象年齢の拡大」が続く。

デマンドタクシーの検討すべき点について尋ねたところ、「運行範囲の拡大（市外への運行）」が40.8%と第1位に挙げられ、次いで「対象年齢の拡大」(29.7%)、「利用時間の延長」(24.9%)、「待ち時間の短縮」(16.0%)などの順となっている。

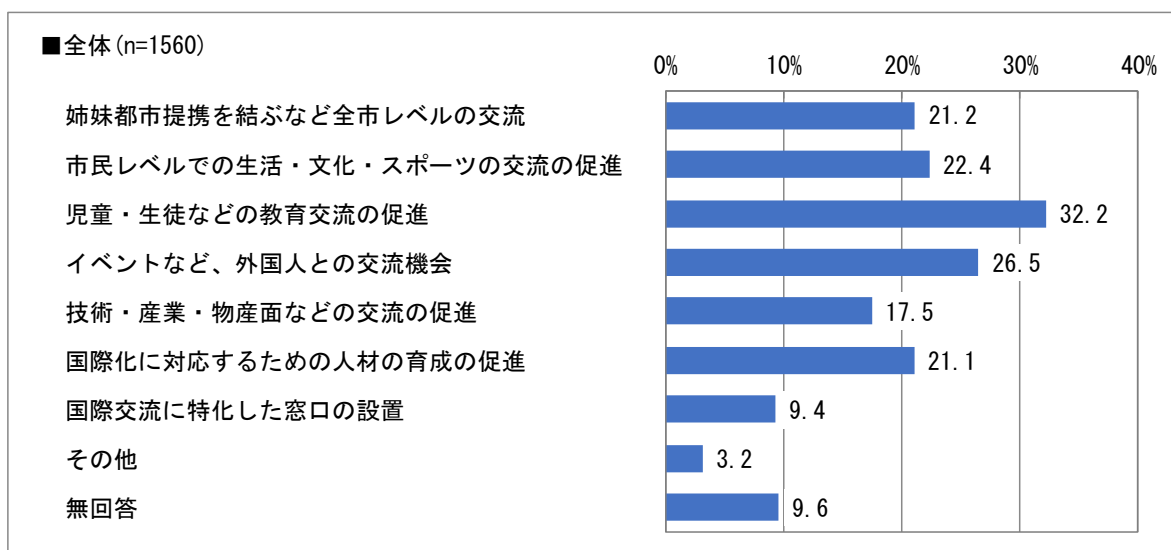


13 国際交流について

(1) 望ましい国際交流の促進方法

■「児童・生徒などの教育交流の促進」が第1位。

望ましい国際交流の促進方法は、「児童・生徒などの教育交流の促進」(32.2%)が第1位に挙げられ、次いで「イベントなど、外国人との交流機会」(26.5%)、「市民レベルでの生活・文化・スポーツ交流の促進」(22.4%)、「姉妹都市提携を結ぶなど全市レベルの交流」(21.2%)、「国際化に対応するための人材の育成の促進」(21.1%)などの順となっている。

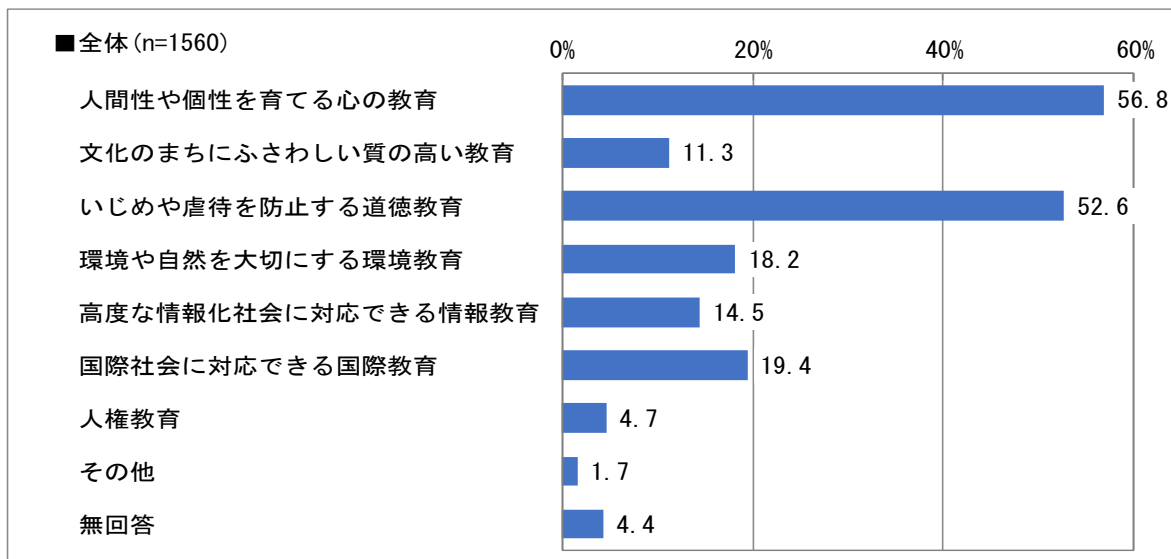


14 市の教育方針について

(1) 力を入れるべき教育

■「人間性や個性を育てる心の教育」及び「いじめや虐待を防止する道徳教育」が2大要望。

力を入れるべき教育は、「人間性や個性を育てる心の教育」(56.8%)が第1位に挙げられ、次いで「いじめや虐待を防止する道徳教育」(52.6%)が続き、これらが他を大きく引き離して2大要望となっている。

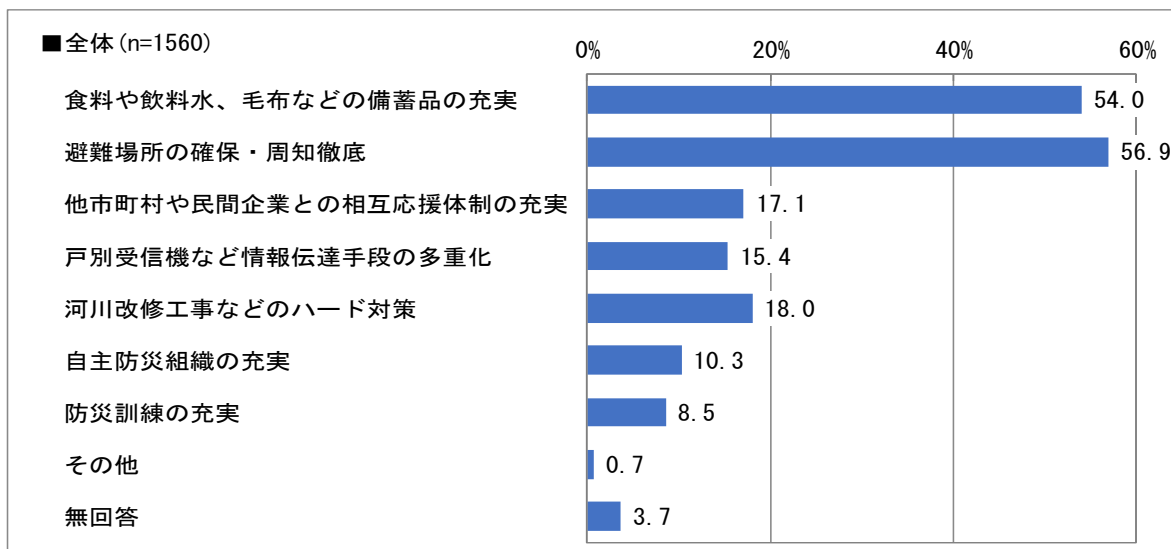


15 防災体制について

(1) 防災体制として重要なこと

■「避難場所の確保・周知徹底」が第1位。次いで「食料や飲料水、毛布などの備蓄品の充実」で、この2つが特に多い。

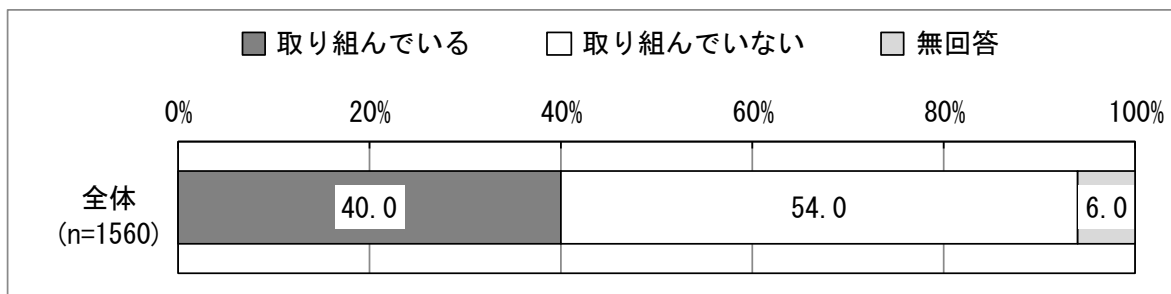
防災体制として重要なことは、「避難場所の確保・周知徹底」(56.9%)が第1位に挙げられ、次いで「食料や飲料水、毛布などの備蓄品の充実」(54.0%)で、この2つが特に多い。次に「河川改修工事などのハード対策」(18.0%)、「他市町村や民間企業との相互応援体制の充実」(17.1%)が続いている。



(2) 自身や家庭での防災対策の状況

■「取り組んでいない」が54.0%、「取り組んでいる」が40.0%。

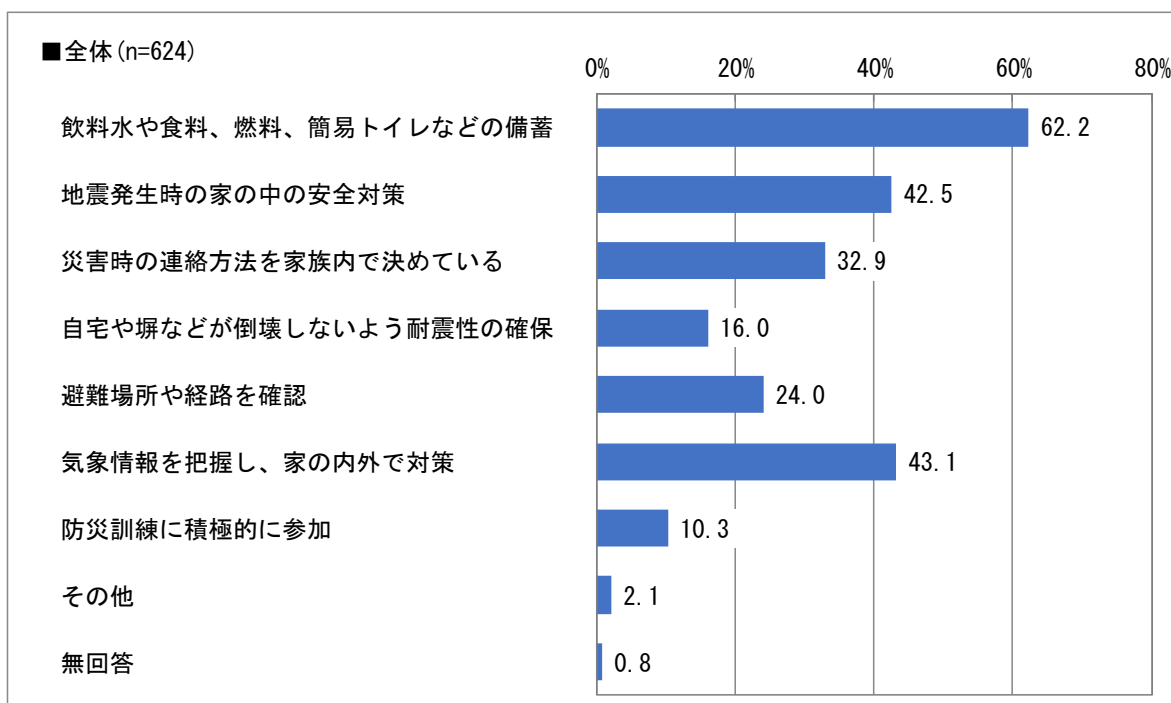
自身や家庭での防災対策の状況については、「取り組んでいない」が54.0%と半数以上となっている。一方、「取り組んでいる」が40.0%となっている。



(3) 防災対策の取り組みの内容

■「飲料水や食料、燃料、簡易トイレなどの備蓄」が第1位に挙げられ、6割を超える。

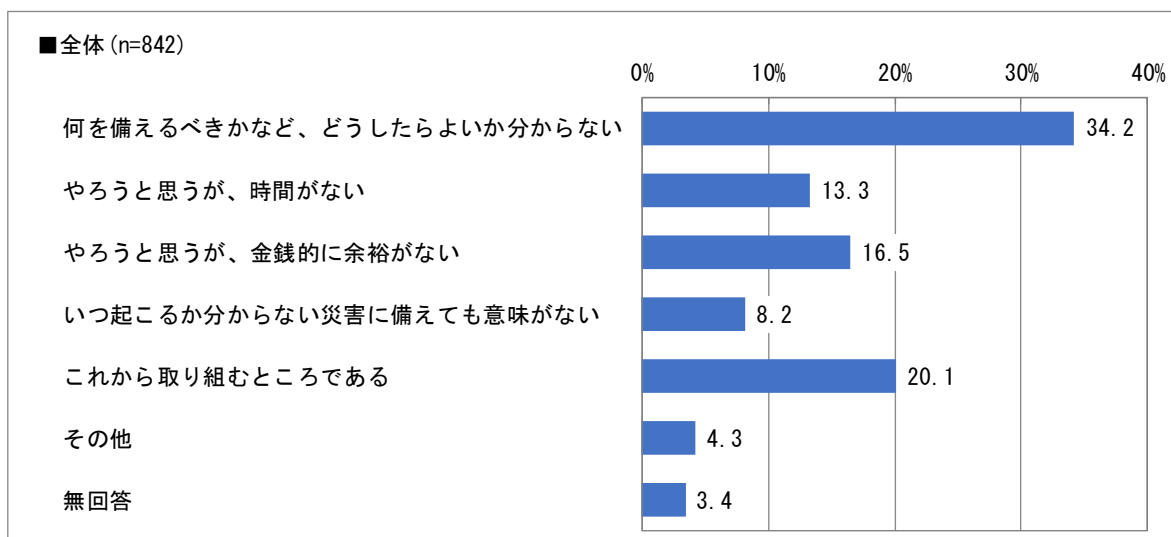
防災対策に「取り組んでいる」人(624人)に行っている取り組みを尋ねたところ、「飲料水や食料、燃料、簡易トイレなどの備蓄」(62.2%)が6割を超え、第1位に挙げられている。次いで「気象情報を把握し、家の内外で対策」(43.1%)、「地震発生時の家の中の安全対策」(42.5%)、「災害時の連絡方法を家族内で決めている」(32.9%)などの順となっている。



(4) 防災対策に取り組んでいない理由

■「何を備えるべきかなど、どうしたらよいか分からない」が第1位。

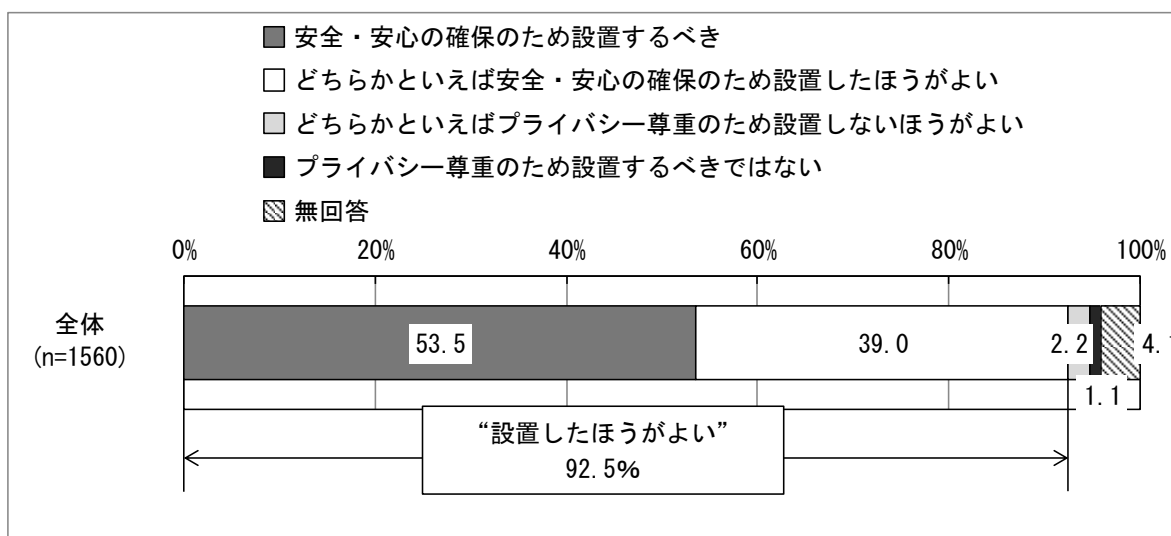
防災対策に「取り組んでいない」人（842人）に取り組まない理由を尋ねたところ、「何を備えるべきかなど、どうしたらよいか分からない」（34.2%）が第1位に挙げられている。次いで「これから取り組むところである」（20.1%）、「やろうと思うが、金銭的に余裕がない」（16.5%）、「やろうと思うが、時間がない」（13.3%）などの順となっている。



(5) 街頭防犯カメラの設置への意見

■“設置したほうがよい”が9割以上。

街頭防犯カメラの設置について、「安全・安心の確保のため設置すべき」が53.5%と最も多く、これに「どちらかといえば安全・安心の確保のため設置したほうがよい」（39.0%）を合わせた“設置したほうがよい”は92.5%と9割以上を占める。一方、“設置しないほうがよい”（「どちらかといえばプライバシー尊重のため設置しないほうがよい」（2.2%）及び「プライバシー尊重のため設置すべきではない」（1.1%）の合計）はわずか3.3%にとどまる。

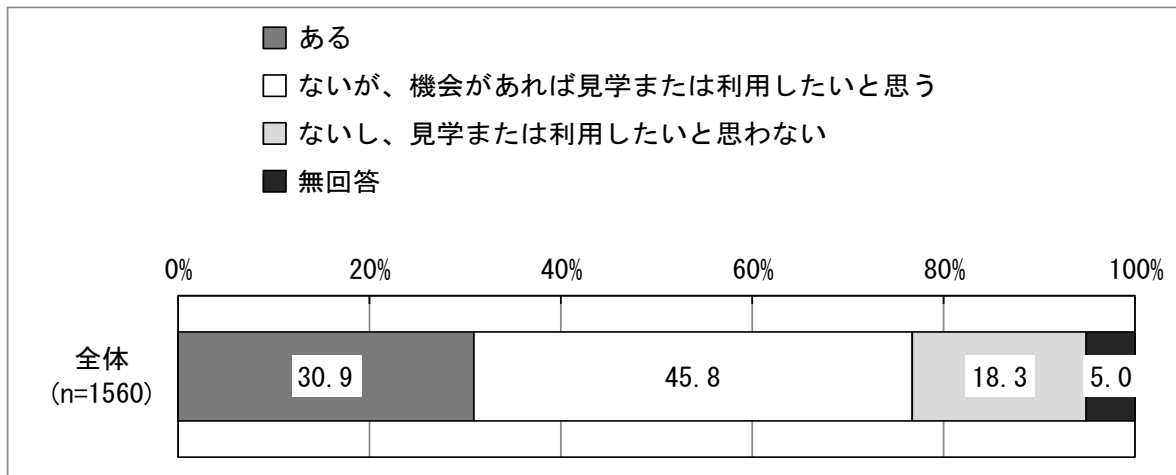


16 ものづくり大学について

(1) ものづくり大学施設の見学・利用状況

■「ないが、機会があれば見学または利用したいと思う」が 45.8%を占め、見学・利用意向のある人が約8割を占める。

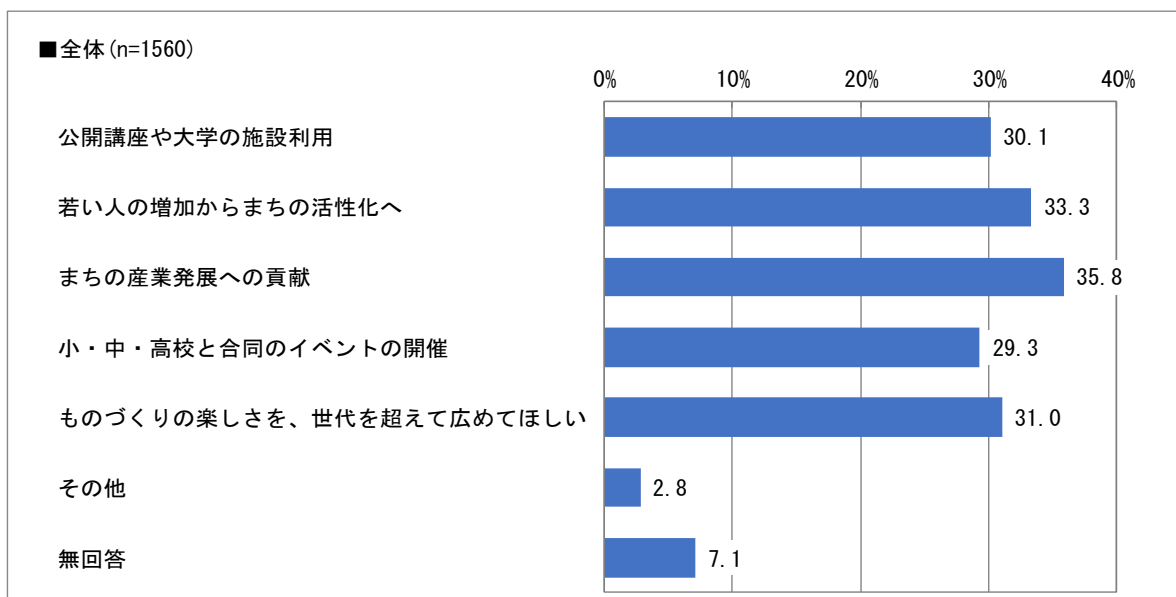
ものづくり大学施設の見学・利用状況については、「ないが、機会があれば見学または利用したいと思う」が45.8%と最も多く、次いで「ある」が30.9%、「ないし、見学または利用したいと思わない」が18.3%となっている。大学の見学・利用意向がある割合（「ある」及び「ないが、機会があれば見学または利用したいと思う」の合計）は76.7%と約8割を占めている。



(2) ものづくり大学に期待すること

■「まちの産業発展への貢献」が第1位。次いで「若い人の増加からまちの活性化へ」が続く。

ものづくり大学に期待することは、「まちの産業発展への貢献」(35.8%)が第1位に挙げられ、次いで「若い人の増加からまちの活性化へ」(33.3%)、「ものづくりの楽しさを世代を超えて広めてほしい」(31.0%)、「公開講座や大学の施設利用」(30.1%)、「小・中・高校と合同のイベントの開催」(29.3%)の順となっている。



17 市民の通勤、買い物などの行き先について

(1) 市民の通勤・通学、買い物などの主な行き先

■ 『②日常的な買い物』『④病院等の利用』は「市内」、『③週末の買い物』では「近隣市町」、『⑧自然を親しむ近距離の行楽』では「県外」が最も多い。一方、『①通勤先・通学先』『⑤スポーツ・レクリエーション』『⑥生涯学習、サークル、文化活動』『⑦音楽会、観劇、美術鑑賞等』『⑨歴史・文化に親しむ近距離の行楽』では、「そのような行動はしていない」が最も多い。

通勤・通学、買い物などの主な行き先を尋ねたところ、『①通勤先・通学先』では「そのような行動はしていない」(26.2%)が最も多く、次いで「市内」(24.2%)、「近隣市町」(18.1%)などの順となっている。

『②日常的な買い物』では「市内」(68.5%)が最も多く、次いで「近隣市町」(21.0%)、「県内」(3.4%)などの順となっている。

『③週末の買い物』では「近隣市町」(39.0%)が最も多く、次いで「市内」(36.3%)、「県内」(7.6%)などの順となっている。

『④病院などの利用』では「市内」(61.7%)が最も多く、次いで「近隣市町」(22.9%)、「県内」(6.2%)などの順となっている。

『⑤スポーツ・レクリエーション』では「そのような行動はしていない」(34.4%)が最も多く、次いで「市内」(30.3%)、「近隣市町」(12.6%)などの順となっている。

『⑥生涯学習、サークル、文化活動』では「そのような行動はしていない」(54.1%)が最も多く、次いで「市内」(23.6%)、「近隣市町」(5.1%)などの順となっている。

『⑦音楽会、観劇、美術鑑賞等』では「そのような行動はしていない」(36.5%)が最も多く、次いで「県外」(28.8%)、「近隣市町」(9.1%)などの順となっている。

『⑧自然を親しむ近距離の行楽』では「県外」(30.5%)が最も多く、次いで「県内」(18.8%)、「そのような行動はしていない」(17.5%)などの順となっている。

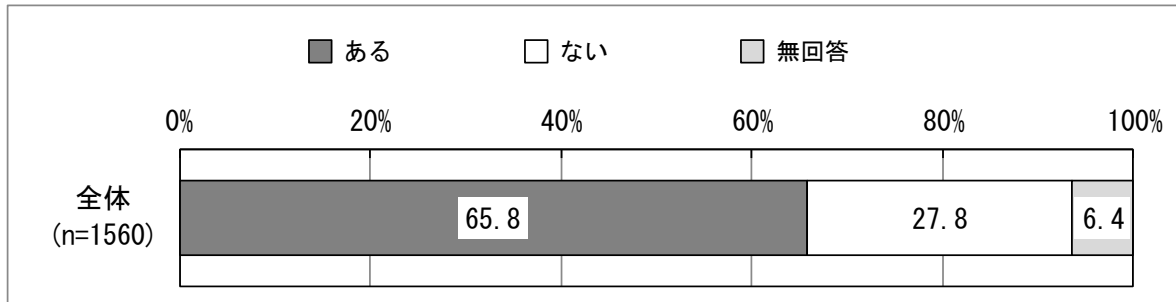
『⑨歴史・文化に親しむ近距離の行楽』では「そのような行動はしていない」(26.8%)が最も多く、次いで「県外」(26.4%)、「県内」(15.8%)などの順となっている。

18 インターネットの利用について

(1) インターネットが利用できる環境

■ インターネットの利用ができる環境が「ある」が 65.8%。

インターネットが利用できる環境があるかについては、「ある」が 65.8%と 6 割以上を占める一方、「ない」は 27.8%となっている。

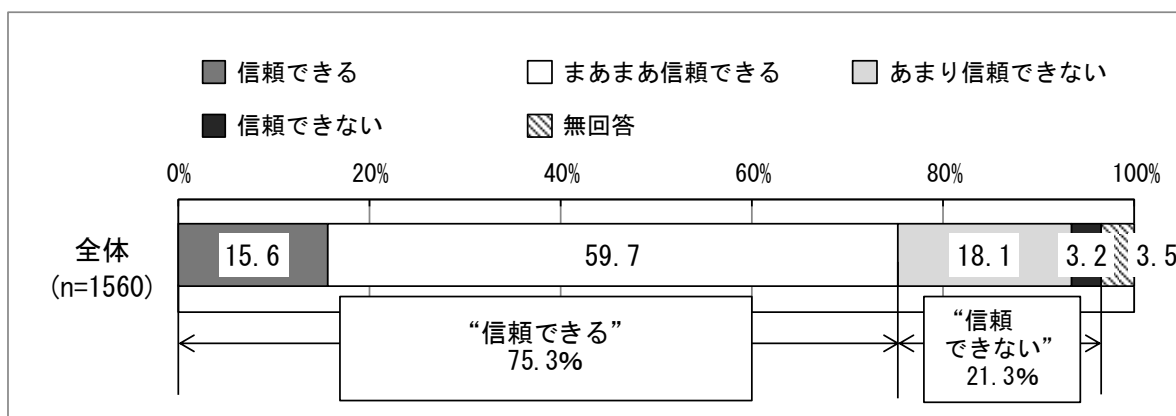


19 市政や市役所について

(1) 行政への信頼度

■ “信頼できる” が 75.3%、“信頼できない” が 21.3%。

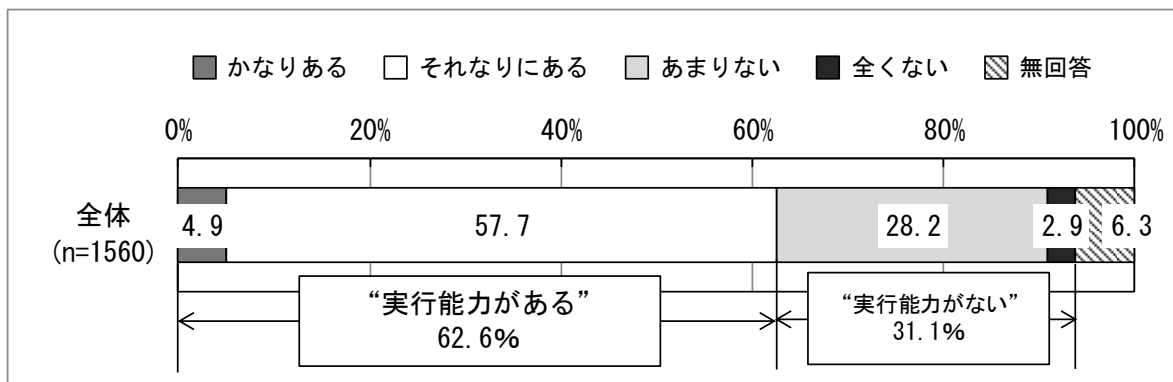
行政への信頼度については、「まあまあ信頼できる」が 59.7%で最も多く、これに「信頼できる」(15.6%) を合わせた“信頼できる”が 75.3%と 7 割を超える。一方、“信頼できない”（「あまり信頼できない」(18.1%) 及び「信頼できない」(3.2%) の合計）は 21.3%となっている。



(2) 各施策の実行能力

■ “実行能力がある” が 62.6%、“実行能力がない” が 31.1%。

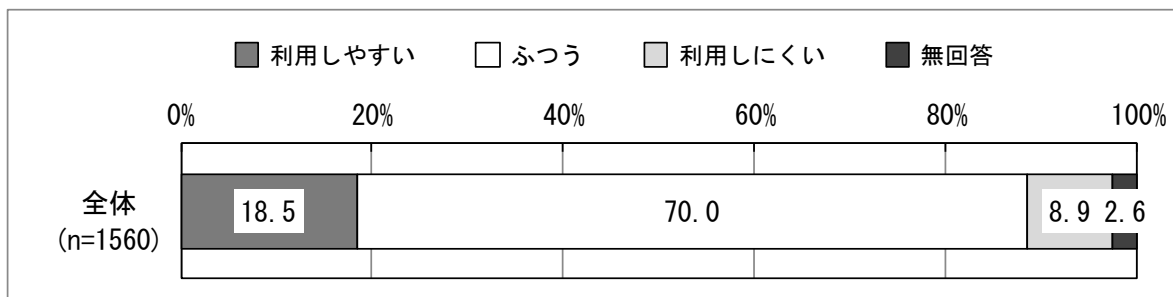
各施策の実行能力については、「それなりにある」が 57.7%で最も多く、これに「かなりある」(4.9%) を合わせた“実行能力がある”が 62.6%と 6 割を超える。一方“実行能力がない”（「あまりない」(28.2%) 及び「全くない」(2.9%) の合計）は 31.1%となっている。



(3) 市役所の利用しやすさ

■ 「ふつう」が 70.0%、「利用しやすい」が 18.5%、「利用しにくい」が 8.9%。

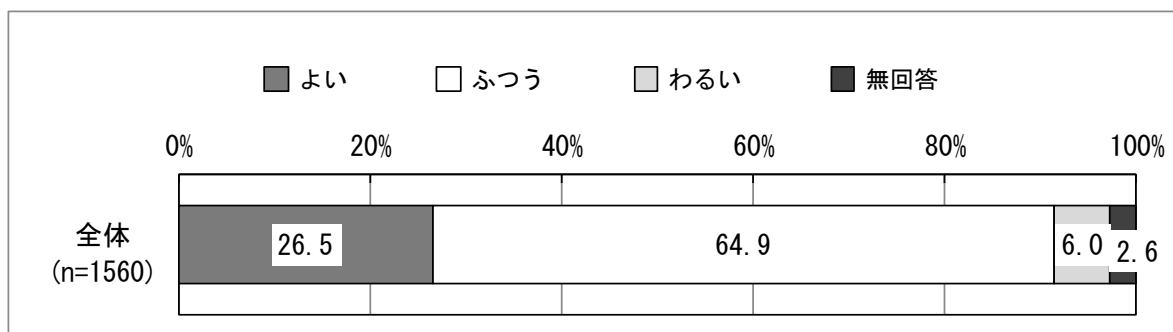
市役所の利用しやすさは、「ふつう」が 70.0%と 7 割を占めている。「利用しやすい」は 18.5%、「利用しにくい」は 8.9%となっている。



(4) 窓口の対応

■ 「ふつう」が 64.9%、「よい」が 26.5%、「わるい」が 6.0%。

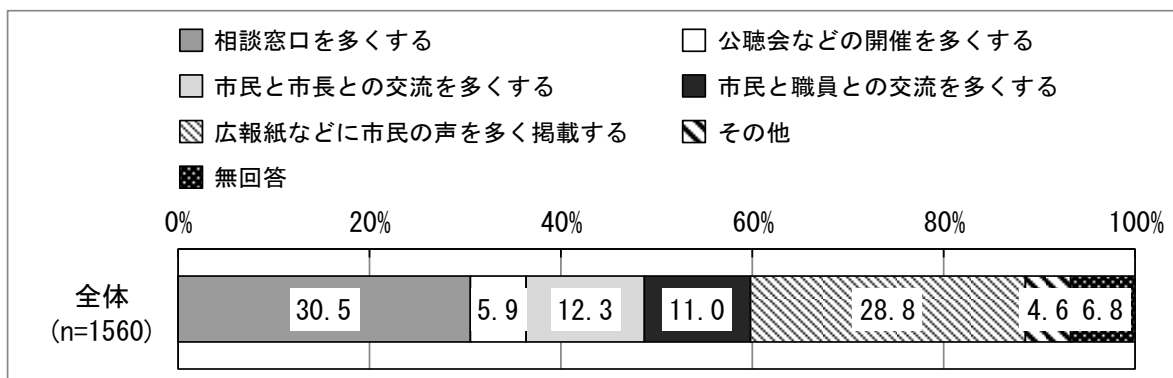
窓口の対応については、「ふつう」が 64.9%と 6 割を超え、「よい」が 26.5%、「わるい」が 6.0%となっている。



(5) 市民の声を反映しやすくするために必要なこと

■「相談窓口を多くする」が最も多く、次いで「広報紙などに市民の声を多く掲載する」が続く。

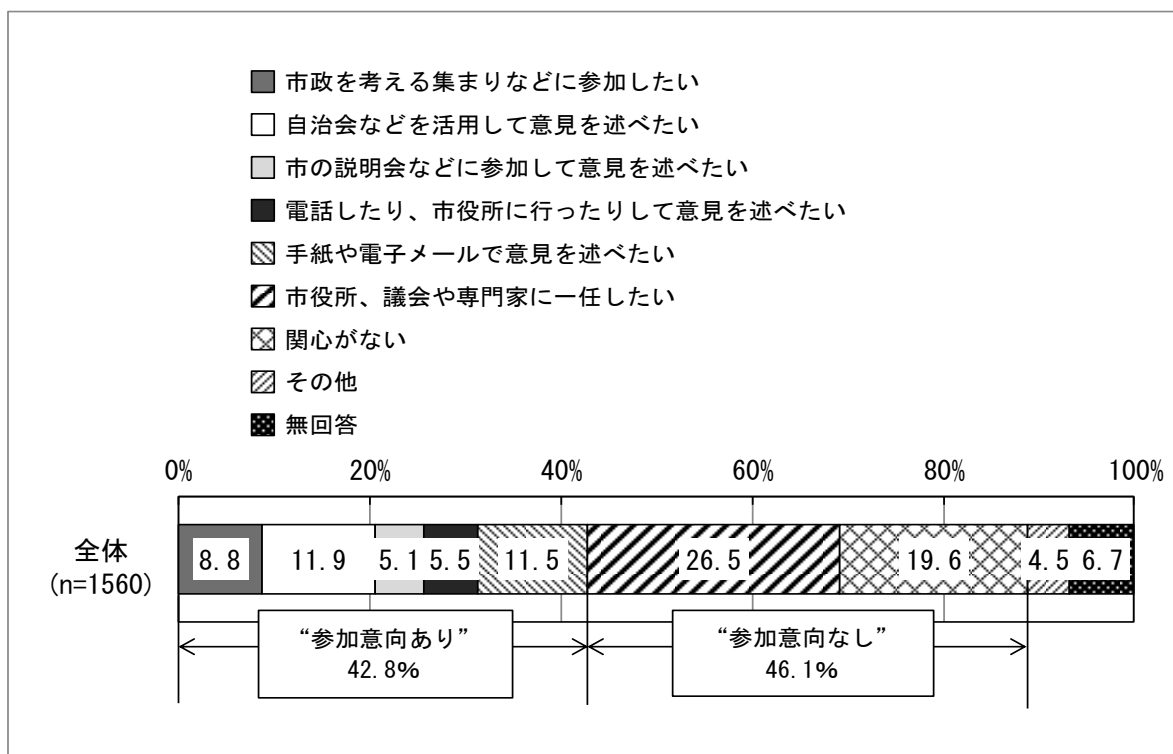
市民の声を反映しやすくするために必要なことは、「相談窓口を多くする」が30.5%と最も多く、次いで「広報紙などに市民の声を多く掲載する」が28.8%、「市民と市長との交流を多くする」が12.3%、「市民と職員との交流を多くする」が11.0%などの順となっている。



(6) 市政への参加

■市政への“参加意向あり”が42.8%、“参加意向なし”は46.1%。

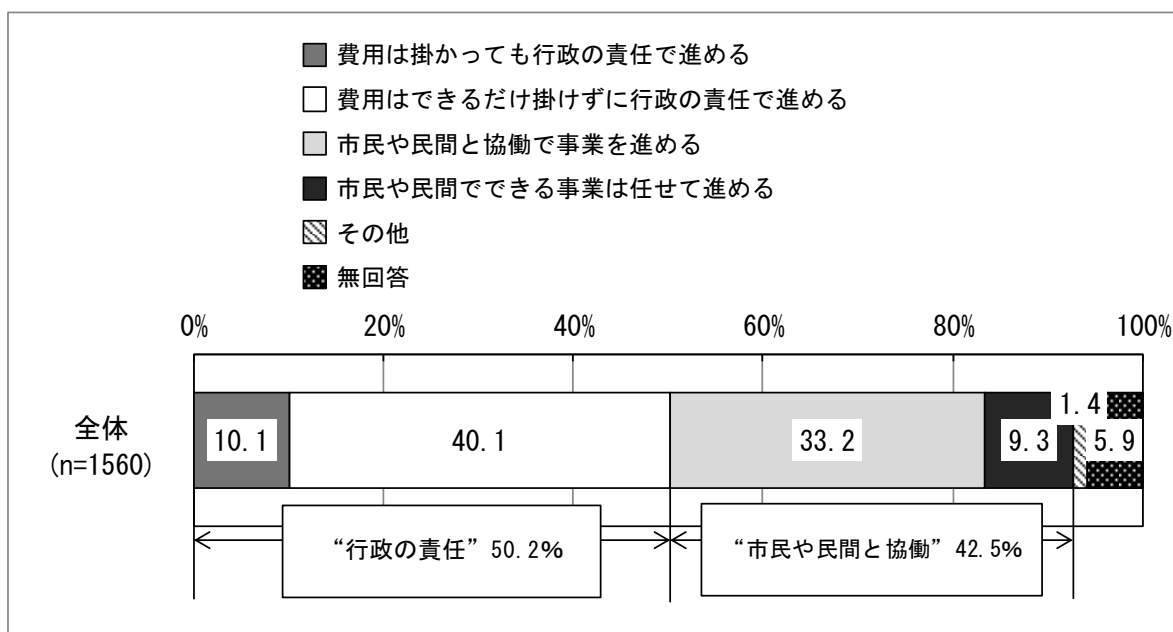
市政への参加については、「自治会などを活用して意見を述べたい」(11.9%)、「手紙や電子メールで意見を述べたい」(11.5%)、「市政を考える集まりなどに参加したい」(8.8%)、「電話したり、市役所に行ったりして意見を述べたい」(5.5%)、「市の説明会などに参加して意見を述べたい」(5.1%)など何らかの形で参加や意見を述べたいと考える“参加意向あり”は42.8%となっている。一方、「関心がない」(19.6%)と「市役所、議会や専門家に一任したい」(26.5%)を合わせた“参加意向なし”は46.1%となっている。



(7) 今後の行政運営について望ましいと思う方向

■ “行政の責任” が 50.2%、“市民や民間と協働” が 42.5%。

今後の行政運営について望ましいと思う方向については、「費用はできるだけ掛けずに行政の責任で進める」が 40.1%で最も多く、これに「費用は掛かっても行政の責任で進める」(10.1%)を合わせた“行政の責任”が 50.2%となっている。一方、“市民や民間と協働”（「市民や民間と協働で事業を進める」(33.2%) 及び「市民や民間でできる事業は任せて進める」(9.3%) の合計）は 42.5%であった。



行田市民意識調査 報告書
(概要版)

発行日／令和2年1月

発行／行田市 総合政策部 広報広聴課

〒361-8601 埼玉県行田市本丸2-5

TEL.048-556-1111

印刷／地域計画株式会社